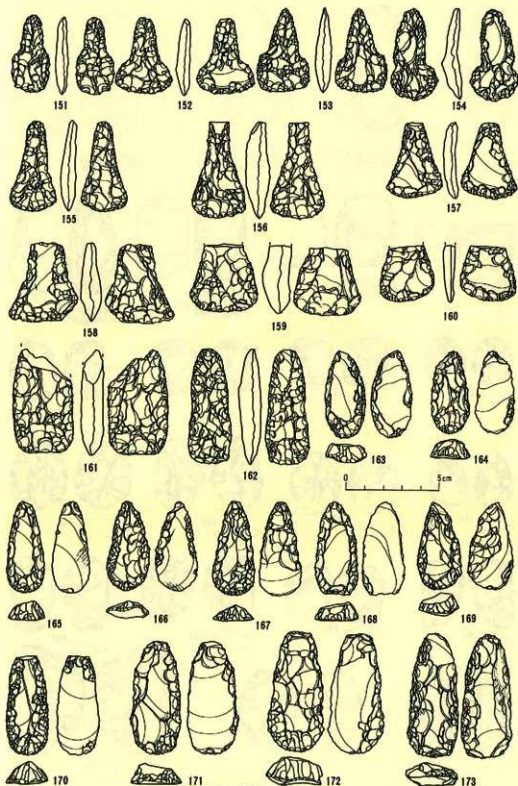
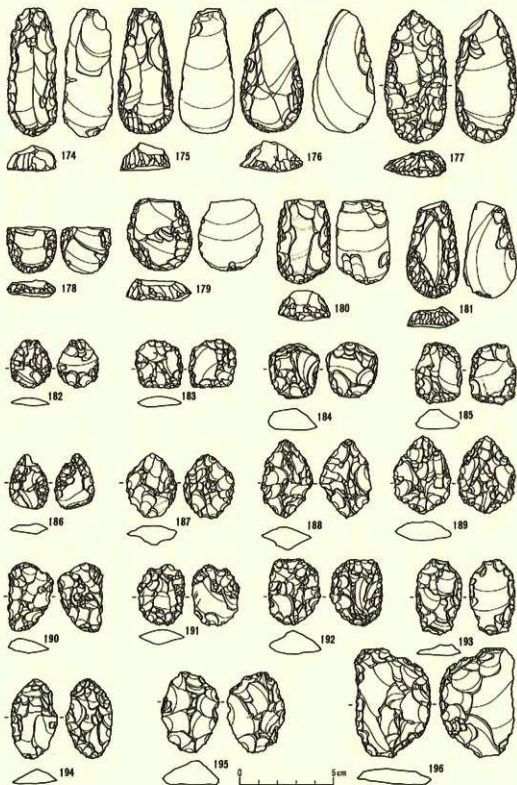
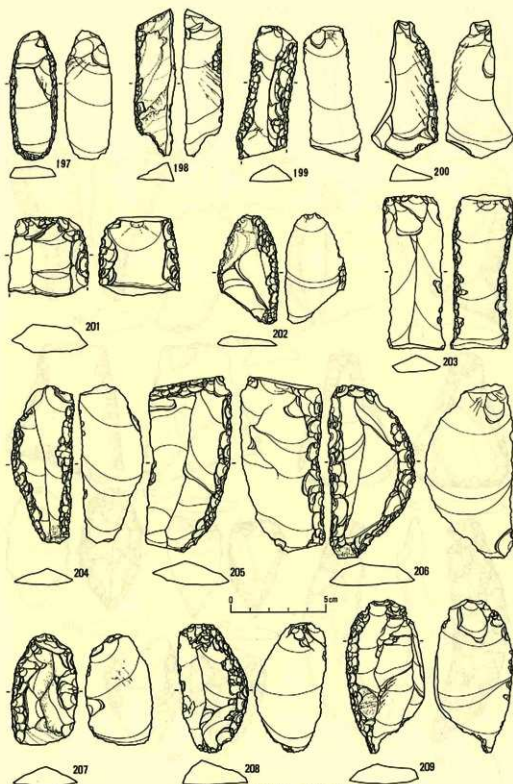




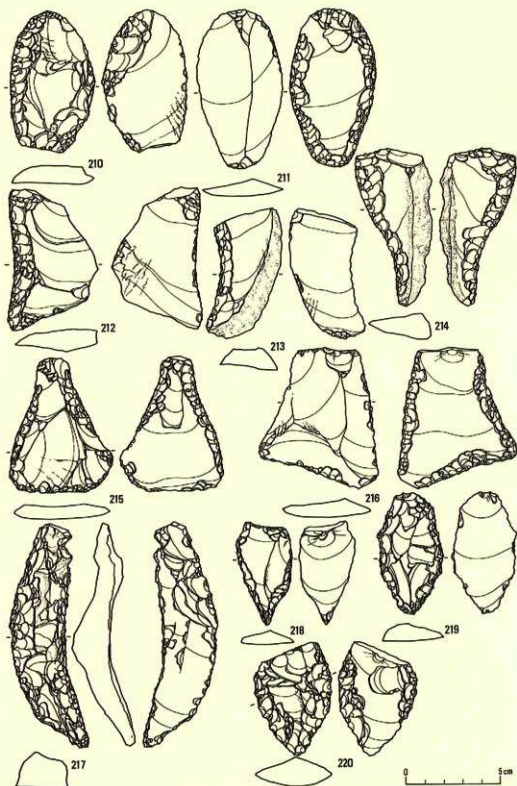
図Ⅷ-136 包含層出土の石器(7)



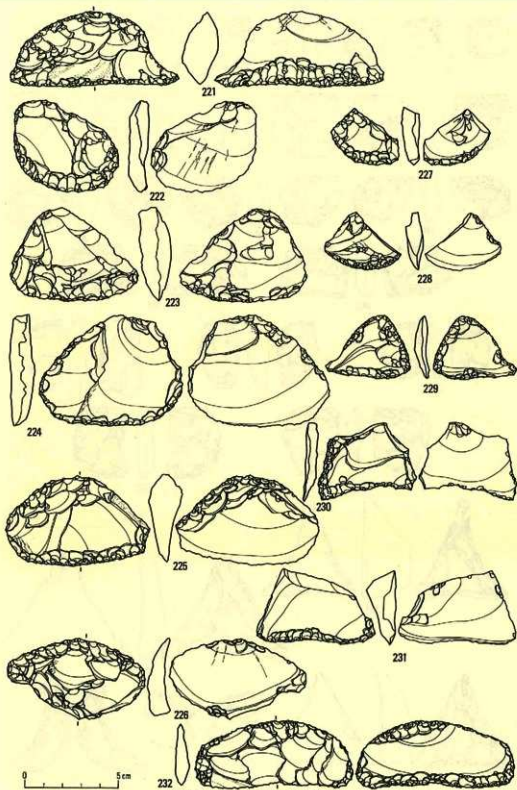
図VIII-137 包含層出土の石器(8)



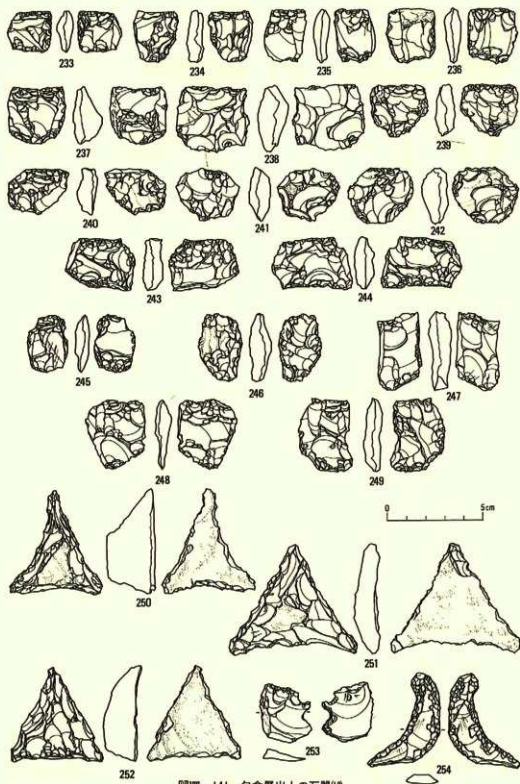
図Ⅷ-138 包含層出土の石器(9)



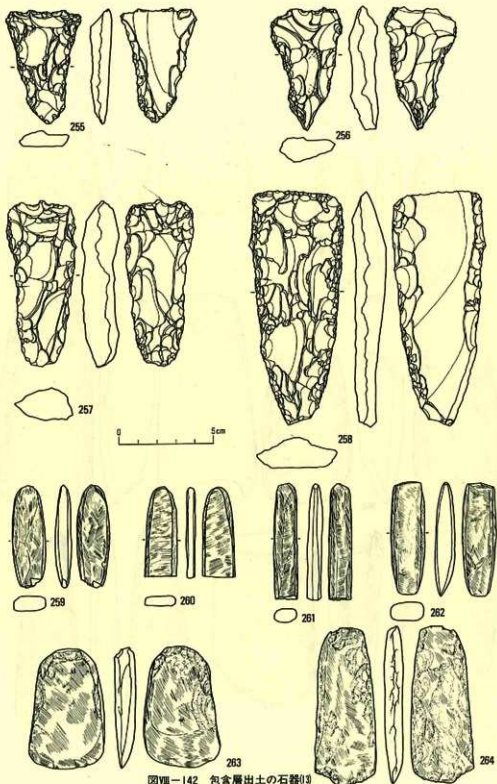
図VIII-139 包含層出土の石器④



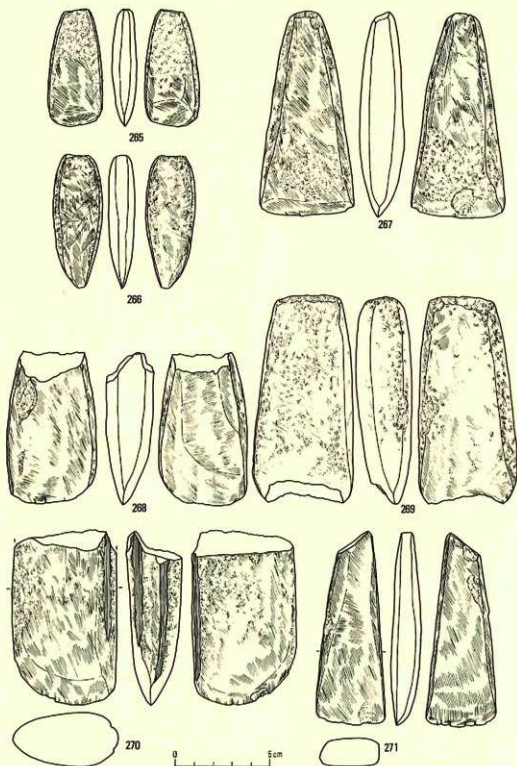
図Ⅷ-140 包含層出土の石器(1)



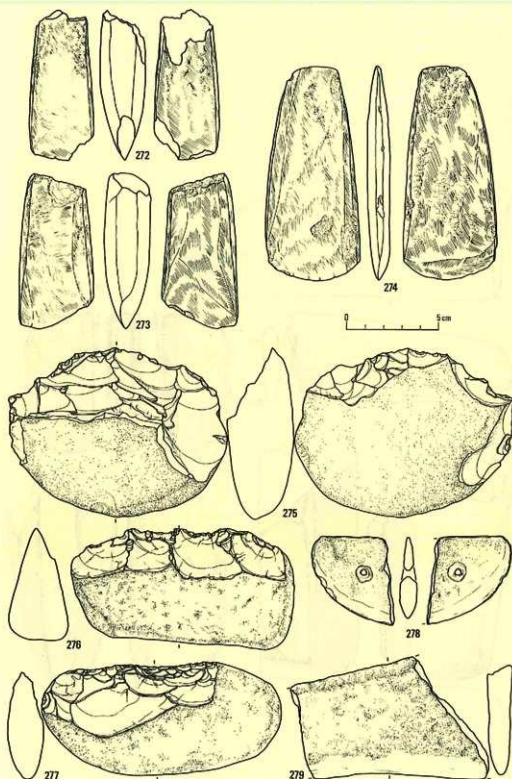
図Ⅷ-141 包倉層出土の石器(刀)



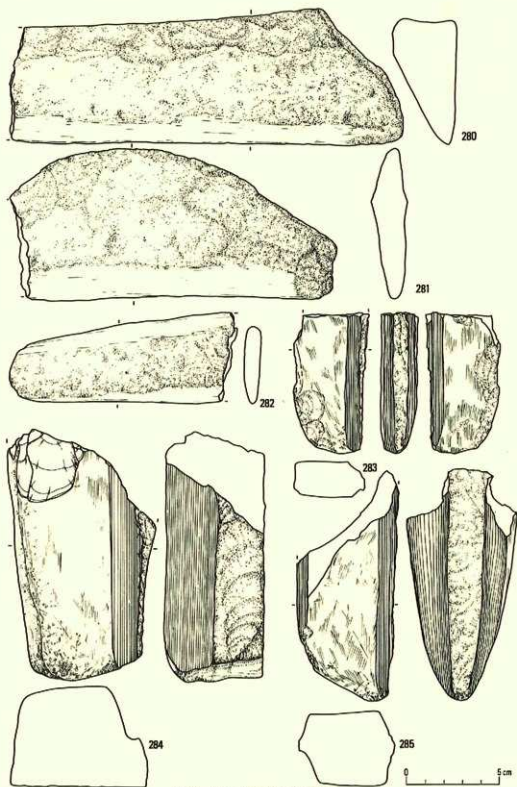
図Ⅷ-142 包舎層出土の石器③



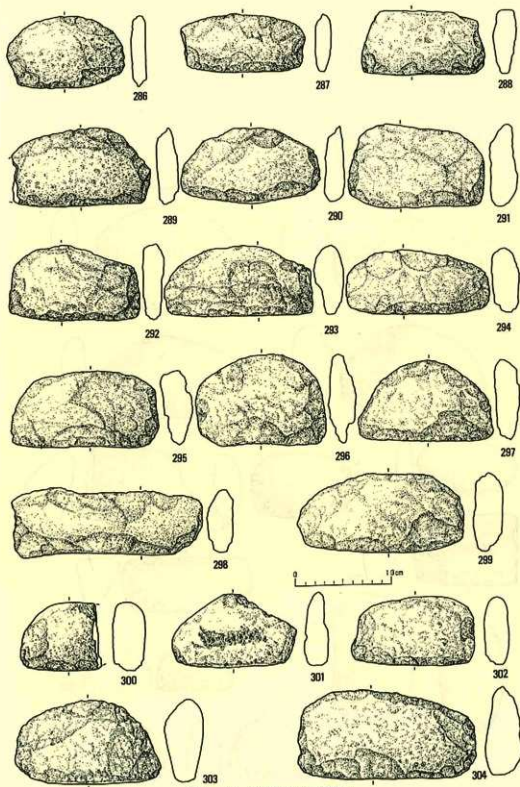
図VIII-143 包含層出土の石器(6)



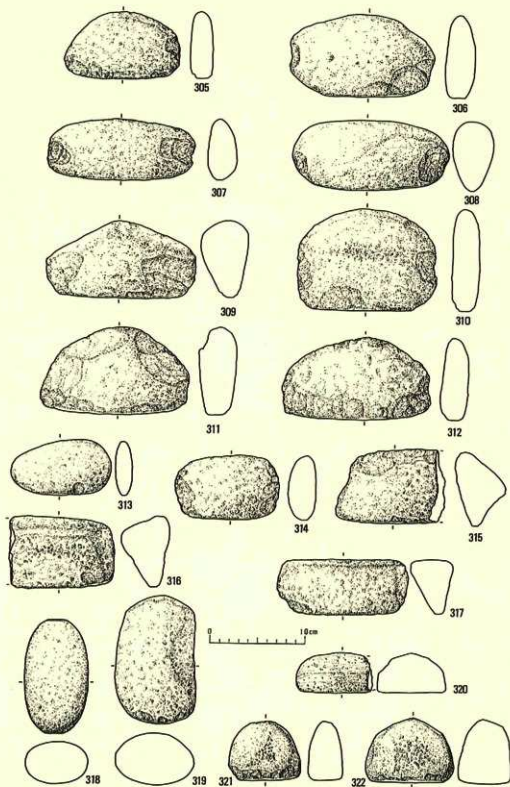
図Ⅷ-144 包含層出土の石器09



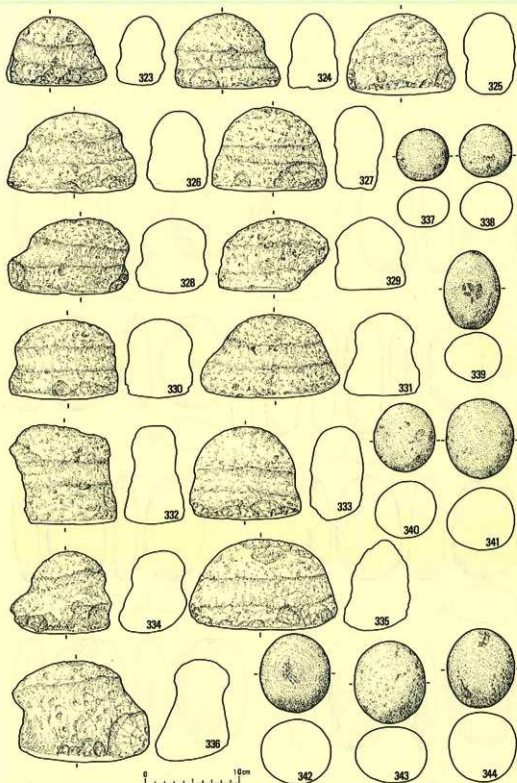
図Ⅷ-145 包含層出土の石器類



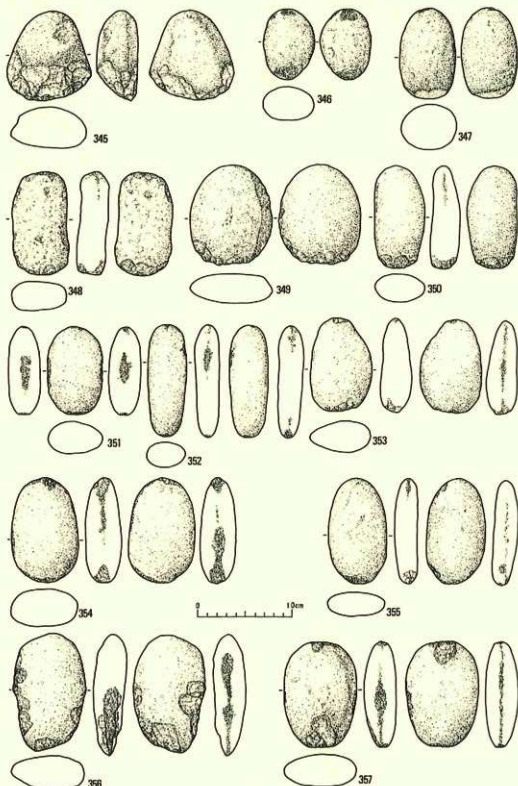
図Ⅶ-146 包含層出土の石器(Ⅶ)



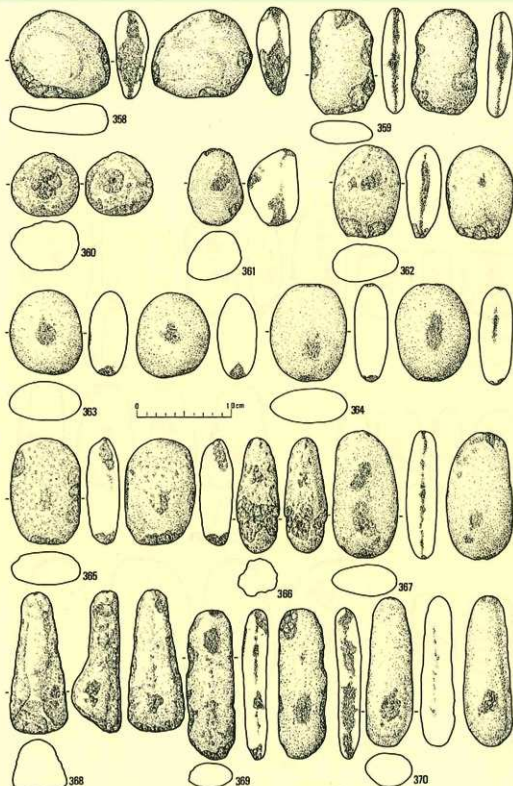
図Ⅷ-147 包食層出土の石器(Ⅷ)



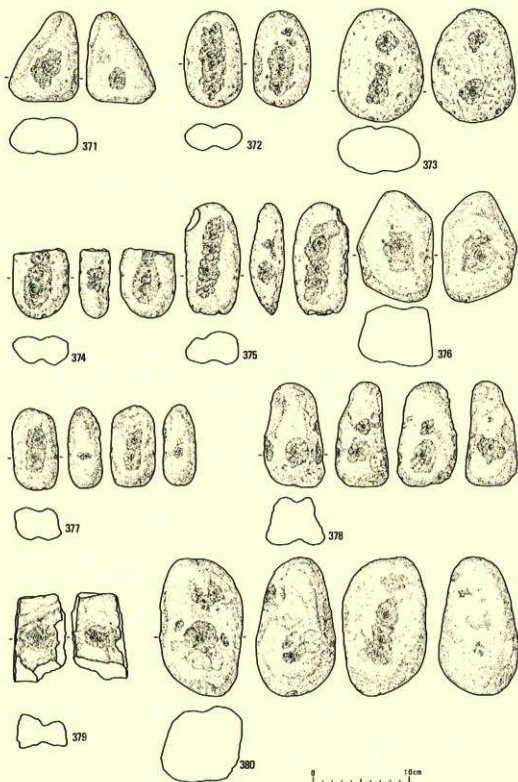
図Ⅷ-148 包食層出土の石器(9)



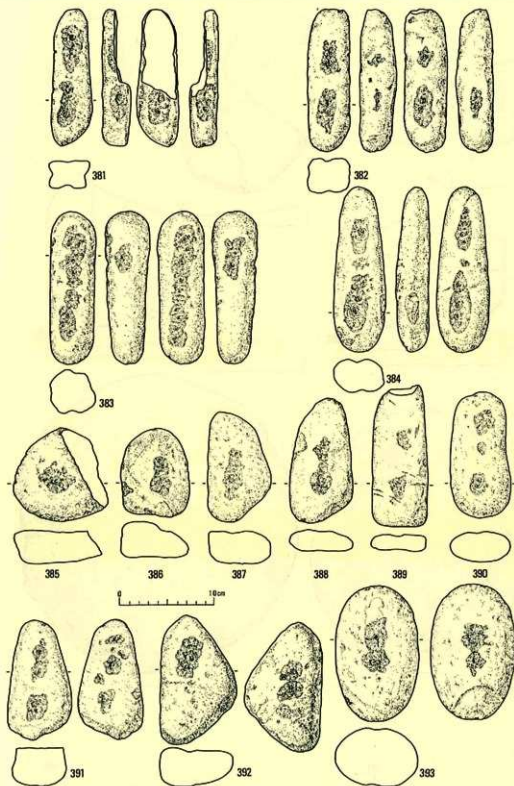
図Ⅷ-149 包含層出土の石器(2)



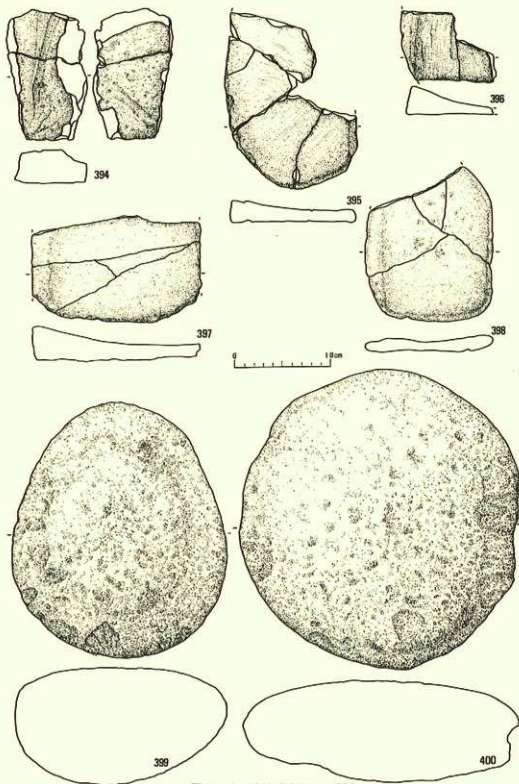
図Ⅷ-150 包含層出土の石器20



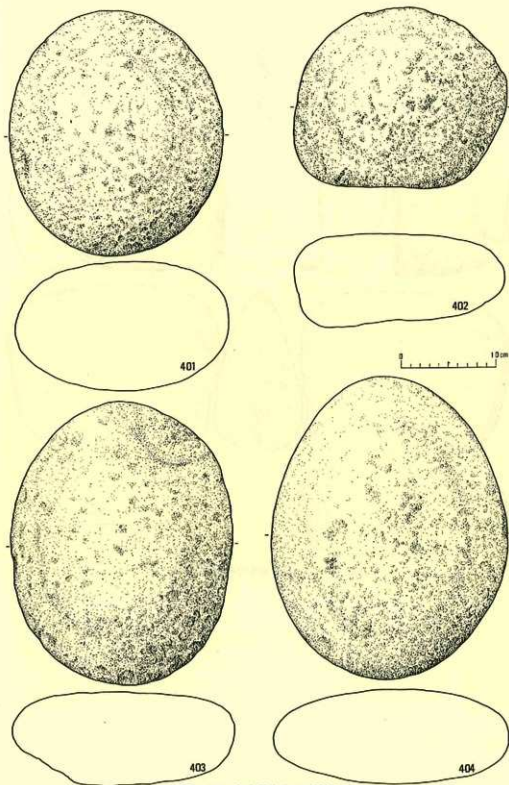
図Ⅷ-151 包含層出土の石器②



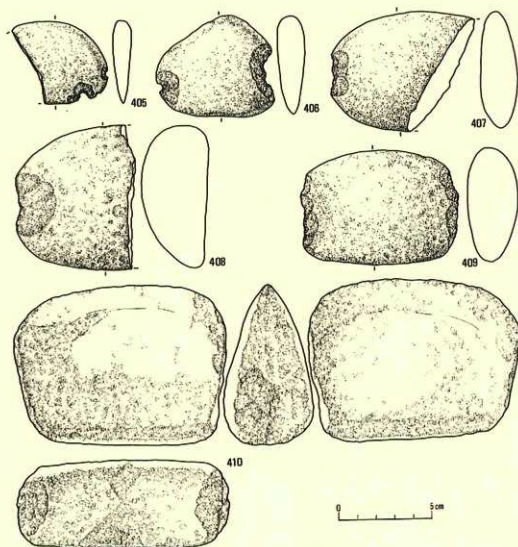
図Ⅷ-152 包含層出土の石器(7)



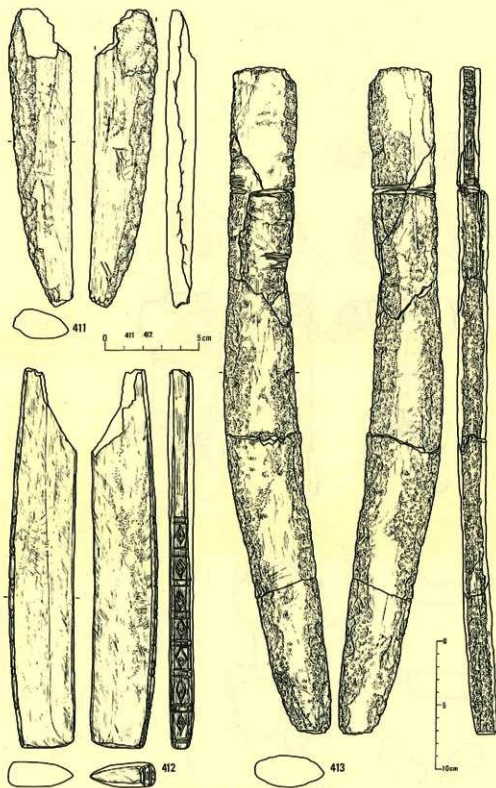
図Ⅷ-153 包舎層出土の石器24



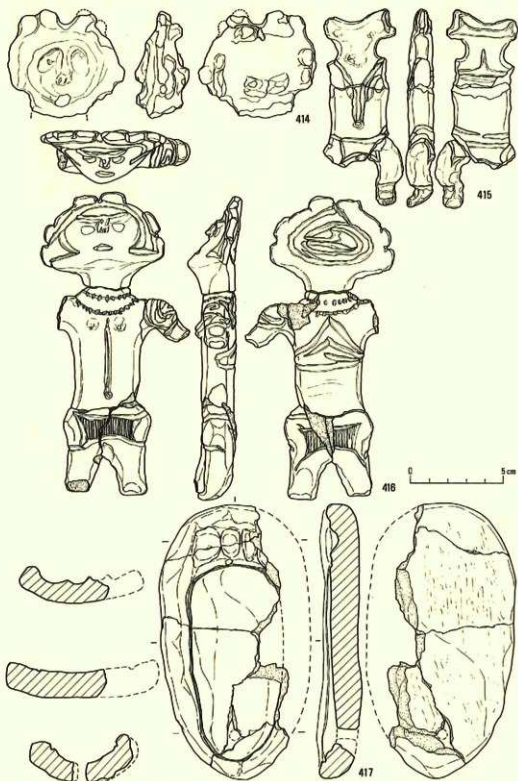
図Ⅷ-154 包含層出土の石器(5)



図Ⅷ-155 包含層出土の石器④



図Ⅷ-156 包含層出土の石器(7)



図Ⅶ-157 包食層出土の土製品(1)

(iii) 土製品

414～416は土偶で、いずれも晩期（V群土器）のものである。415は顔面（目・鼻・口）・乳房が剥落している。下半身にはパンツ様の着衣が認められ、その下位には刺突によって陰部と推されるものが表現されている。416は首に二連の飾り、下半身にはパンツ様の着衣が表現されており、頭頂部と左耳に相当する部分とに赤色顔料の痕跡がわずかに認められる。

417は小児の右足の圧痕を付けた足形付土版で、北海道では千歳市美々5遺跡（2点出土）に続く3例目の資料である。表面は指による整形痕が一部に認められ、縦方向のミガキによって滑らかになっており、裏面は縦方向のナデによる調整が施されている。足指の圧痕は深く、足底部は沈線によってその輪郭が強調されている。中央部右側には赤色顔料の痕跡がわずかに認められ、また踵の部位には貫通孔の痕跡が残っている。

418～449は有孔・無孔の円盤状土製品で、418～427はIII群、428～437はIV群A類、438～448はV群B類、449はV群C類の土器片を利用したものである。

450～452は耳飾り。453は周縁に円形刺突の施された環形状のもの。454・455は鐸形土製品。456は上下不明であるが、鐸形土製品の鈕部の可能性もある。

注 熊谷常正（1986『滝沢村・湯舟沢遺跡の足形付土製品について』『湯舟沢遺跡第2分冊』PP. 883～887）は、本資料の第二指付け根に円形刺突が施されているとするが、これは粘土に含まれていた小礫の抜け跡である。

(iv) 石製品

457～459は玉類で、458は火熱による破砕を受けており、石材も不明。461～465は垂飾品。466は環形状を呈し、周縁には刻みが施されている。467は扁平な小円礫に両面をめぐる二本の沈刻線が施されたもの。468は扁平礫を長軸方向に擦切途中で半割したもの。469は扁平礫の周縁が磨かれており、図の左側縁は角張り、下縁から右側縁はV字形を呈している。470はスタンブ状のもの。471は珪質頁岩の剥片の両側縁が磨かれており、一次剥離の鋭さは消失している。石鋸のような機能をはたしたのか。

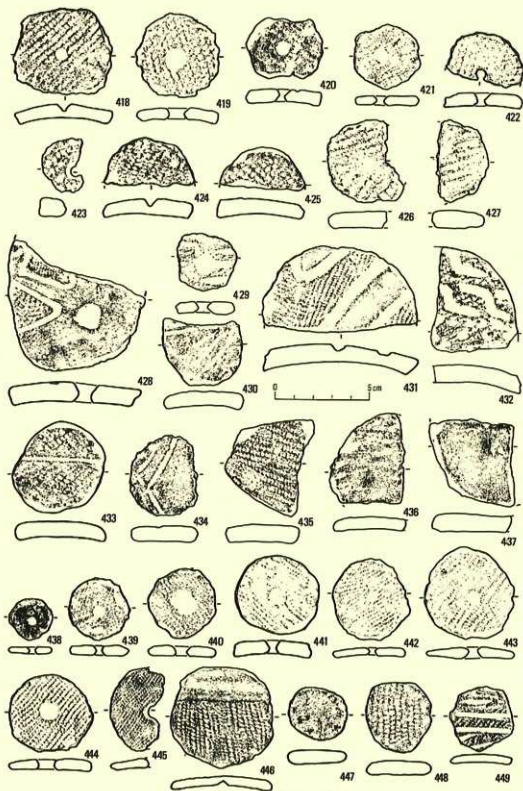
(v) 木製品

472は石斧柄と思われる。素材はミズナラである。固定部を欠失する。原木からの切断の際に打ち削りと折り取りが行われている。台部・頭部にわずかではあるが焦しが施され、その後、打ち削りによる台頭部の調整が加えられたものと思われる。台部側面から主に連続的に打ち削って、尖がった偏平な台頭部を作出している。その調整は粗雑で折り取りの痕跡を残している。台部の加工痕は刃幅2.5～3 cm程度である。グリップ・エンドは斜位に切断し、調整加工が加えられていない。台頭部から握り部上部にかけては加工が行われているが、握り部下位には樹皮が残り、ほとんど加工が加えられていない。

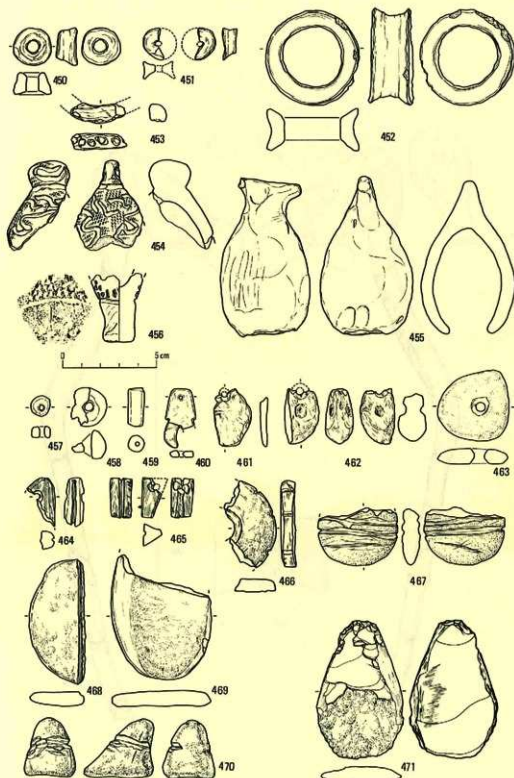
鳥浜貝塚での石斧柄製作工程の復元は

I 石斧の柄としての切りとり一原木からの摘出段階

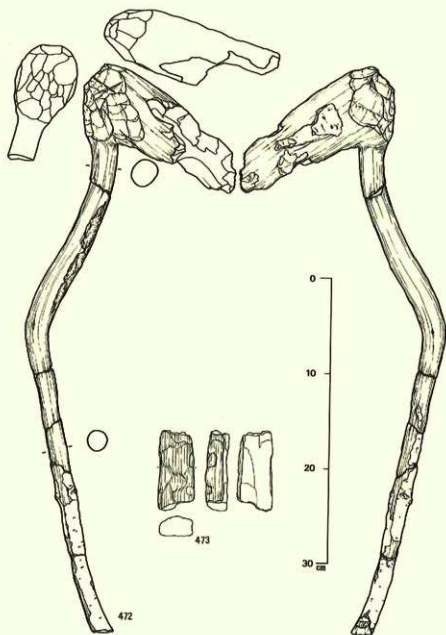
II 台頭部を荒削りしたもの一台部を石斧で荒削りして台頭部を作りだした段階



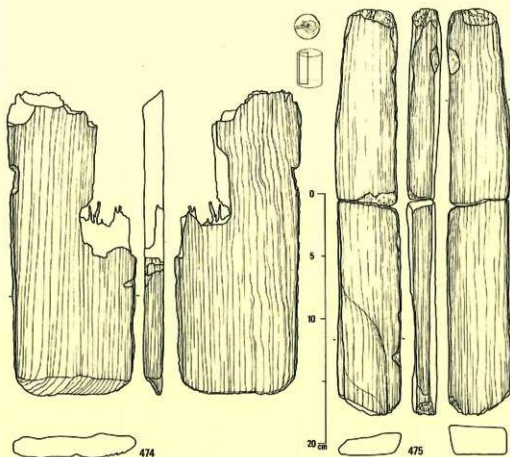
図Ⅷ-158 包含層出土の土製品(2)



図VIII-159 包含層出土の土製品(3)、石製品



図Ⅶ-160 包含層出土の木製品(1)



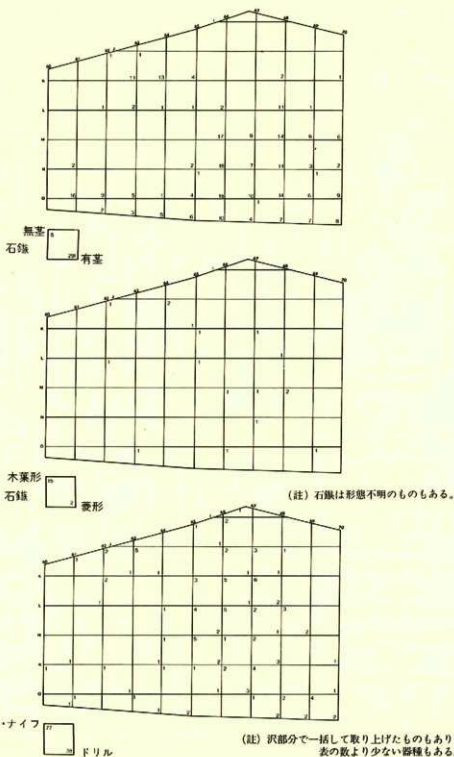
図VIII-161 包含層出土の木製品(2)

III 形づくりの終わったもの—台形部の作りがさらに細くなり、石ヒまたはナイフ状の石器で偏平に整えながら尖らせてゆく段階

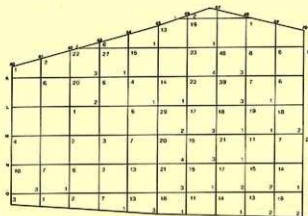
IV 装着部の加工—一定成品—仕上げの段階で、石斧固定部、ソケット部の加工の段階。

以上の4段階に分け、その製作過程を復原しているが、本資料は、装着部が欠失しているため詳細な復原はできないが、この工程をあてはめて考えるならば第二段階のものといえる。473は台部破片と思われる。素材は不明である。474の素材はマツで、樹心をもたない柾目の板材である。一端が欠損しており、打ち削り面には凹凸があり、二次的な調整は加えられていない。木口面は斜めに切断ないしは加工が加えられている。両側縁は幅をそろえるための調整が加えられている。これ自体が完成品であるか否かは不明である。475の素材はクリである。柾目の比較的厚味をもった板材である。明瞭な二次加工痕は認められない。

(註) 鳥浜貝塚の報告において、木製品の加工技術の復原が試みられ、その中で石斧柄の復原も行なわれている。(岡本勇ほか『鳥浜貝塚』福井県教育委員会、1979・1981・1983・1984)



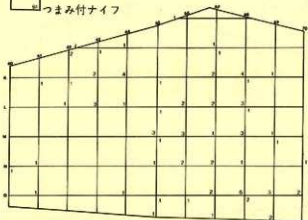
図Ⅷ-162 石器グリッド別出土点数(1)



スクレイパー



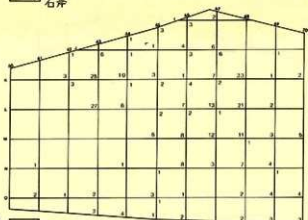
つまみ付ナイフ



楔形石器



石斧



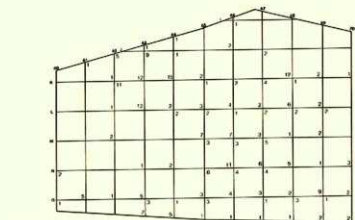
北海道式石冠



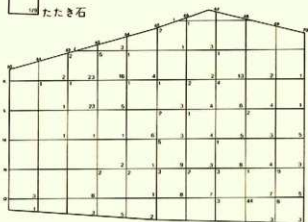
すり石

(註) 沢部分で一括して取り上げたものもあり、表の数より少ない器種もある。

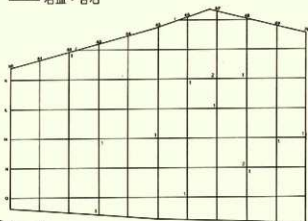
図Ⅷ-163 石器グリッド別出土点数(2)



ぼみ石
 たたき石



砥石
 石皿・台石



石鍾
 石碓

(註) 沢部分で一括して取り上げたものもあり、表の数より少ない器種もある。

図VIII-164 石器グリッド別出土点数(3)

5. 新道4遺跡C地区1・2号住居の復原

奈良国立文化財研究所 宮本 長二郎

二棟の住居址はほぼ同様の炭化材の堆積状況と配置を示しているので両住居址に共通する火災時と火災直後の状況を想定し、住居建築の復原を行う。

炭化建築材の出土状況は床面上に炭化材の細片や小材が多く、堆積土の途中に径の太い長材が堅穴周辺から中央に向かって放射状に分布する。床面の炭化材は細片・小材のため、本来の形状は分らないが、木舞などの屋根材と考えられ、堆積土中の炭化材は垂木と推定される。

垂木材の下に堆積土の状況は堅穴周辺部に厚く中央部に薄い。また、赤く焼けた土は堅穴中央部に集中して周縁部に焼土が少なく。床面上の炭化材と堆積土上の炭化材が同時期のものとすれば、この堆積土は屋根上の葺材以外には考えられない。したがって堅穴周辺に厚く、中央部に薄い堆積状況はある程度は屋根上の葺き土の厚さを表わし、中央部に集中する焼土は、火災時の火勢が中央部に集中したことを示すものである。また、堆積土の層位関係から、まず屋根木舞や草などの葺下地材が床面に落ち、次いで屋根土が垂木と垂木の間から床面に落下しはじめ、火が屋内全体にまわって屋根の荷重を支えきれなくなり屋根全体が落下し、屋根葺土に上って鎮火したものと考えられる。したがって屋根土の多くは屋根崩落時に垂木とともに落ち、そのショックで垂木の間から下方に流下したものと、そのまま垂木上に留まるものがあり、また、鎮火後に日時を経て、徐々に垂木下の間隙を埋めていったものであろう。炭化材の上下に同質の土層が重複するのは以上のような理由が考えられる。

垂木材の形状は幅8～12cmの板目を示す板状材が多く、桎目の棒状材もある。木目の曲卒や棒状材の形式からみて、垂木には心持丸太を使用せず全て割材を利用したものと思われ、材幅等から径20cm前後の材を4つ割にして利用したものと思われる。材質は割材を得易いクリであることはその可能性を高めている。薄い板状材もみられるが屋内側のみが炭化、屋根土に接した部分は生木のままで炭化せずに腐蝕した結果と考えられる。

以上がこれら2棟の焼失住居址から推定される住居の火災時の状況と建築材の形状であるが次に具体的な住居の構造形式の復原を試みてみよう。

1号住居は部分的な検出であるが、堅穴外部の垂木尻掘付痕跡が60cm、210cm、140cm、90cm、120cm、150cmの間隔に並び、深さ10～30cmである。これらの間隔から垂木は60～70cmの等間隔に、また、堅穴中央部に向かって放射状に配置したものと推定される。したがって垂木と垂木の間隔は堅穴中央部で密接して狭く、周縁部に広がる。この間隔をふさぐために垂木と直交して、屋根木舞の細い枝を配りこれに草を葺くか、小枝や板を敷きつめて、屋根全体を土で覆う。土の厚さは覆土層の厚さからみて、堅穴の中心部分で40～50cm、周縁部で80cm程と推定される。

2号住居は4本の主柱をもち、炭化材のうち比較的太くて残りの良い材が、主柱の附近から

堅穴の四隅の方向にのびている。また、桁に細い垂木を密に架けたような状況も一部にみられるところから屋根構造を復原すると、4本の主柱上に桁をめぐらし、主柱上の桁から堅穴の4隅に叉首を架け叉首間に母屋を数段に渡して細い垂木を密接して配る。主柱の内側、つまり桁から上方は各主柱上から4本の合掌を中央で組み、これに母屋、垂木を架け渡して全体を土で覆う。

このように2号住居は1号住居と異なった構造に復原できるが、炭化材の出土状況からは必ずしも確定的なことは言えず、2号住居については1号住居と同じ構造形式であった可能性も考えられる。

以上、新道4遺跡C地区1・2号住居は焼失住居の極めて少ない縄文時代の遺例として、また、屋根に土を葺いたことを間接的に立証し、垂木材に割材を使用したことなど、当時の建築構造を知る上で貴重な遺構であると言える。

6. 新道4遺跡周辺の古植生と堅果について

北海道開拓記念館 山田 悟郎

1 試料と処理方法 (図VIII-82)

試料 花粉分析の対象となった21点の試料は、遺跡の発掘調査に際してL-66グリッドの杭の下で採取されたものである。土壌は1層から15層に区分されているが、花粉分析の対象としたのは縄文時代前期末の遺物包含層である14層から、縄文時代晩期末の遺物包含層である4層までである。14層から9層までが縄文時代前期末(円筒下層式土器)の遺物包含層で、9層から6層中位までが同時代中期(円筒上層式土器)の遺物包含層、6層から4層中位までが同時代後期の遺物包含層、4層が同時代晩期中葉の遺物包含層である。尚、砂礫や粘土を主とした5、7、9~10、15層からは試料の採取は行われていない。何れの試料も腐植に富んだ土壌であるが、全般に細礫や砂が含まれていたほか、14層の試料には中~粗粒砂や微細な炭化物が含まれていた。

処理方法 試料処理にあたっては土壌試料500gをピーカーにとり下記のように化学・物理処理を行なった。

アルカリ処理(10%KOHを加え24時間放置)→水洗(1日に1回上澄液を交換し3週間)→沈澱法により砂礫等を除く→混酸処理($\text{HCl}:\text{HNO}_3:\text{H}_2\text{O}$ の等量混液を加え3分間湯煎)→水洗(遠心分離により数回)→アルカリ処理(5%KOHを加え5分間湯煎)→水洗(遠心分離により数回)→比重分離(比重2.0の ZnCl_2 を加え十分に攪拌した後、1000 r. p. m. で1時間遠心分離)→水洗(遠心分離で数回)→アセトリシス処理(CH_3COOH で洗浄し $\text{H}_2\text{SO}_4:(\text{CH}_3\text{CO})_2\text{O}$ の1:9液を加え3分間湯煎した後、遠心分離し、 CH_3COOH で洗浄)→水洗(遠心分離により数回)→時計皿処理→HF処理→水洗(遠心分離により数回)の順に処理し、プレパラートを1試料につき各3点作成した。

検鏡は通常400倍で行ない、必要に応じて600倍、1,000倍で行なった。同定にあたっては、樹木花粉を200個以上数えるまでに順次出現した花粉・胞子を無作為に同定して計数した。しかし、どの試料も樹木花粉が200個に満たないものであった。

したがって、表示にあたっては各試料から産出した花粉・胞子数を一覧表にして示したほか、主な花粉・胞子については写真図版に示した。また、産出花粉のうち個々の属への同定・分類が困難な花粉については *Juglans-Pterararya* のようにハイフオンで結んで表示した。

2 分析結果

21点の試料から25属1科の樹木花粉、2属18科の草本花粉、3科の胞子、形態分類胞子2種類が産出している。各試料から産出した花粉・胞子の出現数は別表の通りで、その内訳及び想定される主な母植物は下記の通りである。

樹木; *Picea*(トウヒ属; エゾマツ)、*Abies*(モミ属; トドマツ)、*Pinus*(マツ属; ハイマツ・

キタゴヨウ)、*Tsuga*(ツガ属; コメツガ)、*Cryptomeria*(スギ属; スギ)、*Alnus*(ハンノキ属; ハンノキ・ケヤマハンノキ他)、*Betula*(バノキ属; シラカンバ・ウダイカンバ)、*Fagus*(ブナ属; ブナ)、*Castanea*(クリ属; クリ)、*Juglans-Pterocarya*(クルミ属-サワグルミ属; オニグルミ・サワグルミ)、*Carpinus*(クマシデ属; サワシバ他)、*Corylus*(ハシバミ属; ツノハシバミ)、*Quercus*(コナラ亜属; コナラ・ミズナラ・カシワ)、*Ulmus*(ニレ属; ハルニレ・オヒョウニレ)、*Morus*(クワ属; ヤマグワ)、*Fraxinus*(トネリコ属; ヤチダモ・アオダモ)、*Magnolia*(モクレン属; ホウノキ・コブシ)、*Tilia*(シナノキ属; シナノキ・オオバボダイジュ)、*Acer*(カエデ属; イタヤカエデ・ハウチワカエデ他)、*Rubus*(キイチゴ属; クマイチゴ・エビガライチゴ他)、*Rhus*(ウルシ属; ツタウルシ他)、*Ilex*(モチノキ属; ハイイヌツゲ他)、*Phellodendron*(キハダ属; ヒロハノキハダ)、*Araliaceae*(ウコギ科; ハリギリ・タラノキ・コシアブラ他)、*Salix-Populus*(ヤナギ-ハコヤナギ属; エゾノカワヤナギ・オノエヤナギ他)、*Hydrangea*(アジサイ属; ツルアジサイ・ノリウツギ他)

草本; *Polygonaceae*(タデ科; オオイタドリ・ミゾソバ・ハルタデ・エゾノギシギシ他)、*Chenopodiaceae*(アカザ科; アカザ・シロザ・ハマアカザ他)、*Caryophyllaceae*(ナデシコ科; ハコベ・ミニナグサ他)、*Ranunculaceae*(キンボウゲ科; カラマツソウ・アキカラマツ他)、*Cruciferae*(アブラナ科; タネツケバナ・エゾワサビ他)、*Rosaceae*(バラ科; オオダイコンソウ・エゾノシモツケソウ・ナガボノシロワレモコウ他)、*Leguminosae*(マメ科; センダイハギ・クサフジ他)、*Balasaminaceae*(ツリフネソウ科; キツリフネ・ツリフネソウ)、*Guttiferae*(オトギリソウ科; オトギリソウ他)、*Umbelliferae*(セリ科; ヤブジラミ・エゾニユウ・オオバセンキュウ他)、*Labiatae*(シソ科; カワミドリ・カキドウシ・イヌゴマ他)、*Valerianaceae*(オミナエシ科; オミナエシ他)、*Artemisia*(ヨモギ属; オオヨモギ他)、*Carduoideae*(キク亜科; アキタブキ・ハンゴンソウ・ヨブスマソウ・チシマアザミ他)、*Cichorioideae*(タンポポ亜科; コウゾリナ・ハチジョウナ・オニノゲシ他)、*Typhaceae*(ガマ科; ガマ)、*Gramineae*(イネ科; ススキ・ヨシ・イワノガリヤス他)、*Cyperaceae*(カヤツリグサ科; エゾアブラガヤ・オクノカンスゲ他)、*Liliaceae*(ユリ科; バイケイソウ・オオウバユリ他)、*Lysichiton*(ミズバショウ属; ザゼンソウ・ミズバショウ)

胞子; *Equisetaceae*(トクサ科; トクサ・スギナ)、*Lycopodiaceae*(ヒカゲノカズラ科; ヒカゲノカズラ他)、*Osmundaceae*(ゼンマイ科; ゼンマイ・ヤマドリゼンマイ他)

形態分類胞子; *Monolate type spore*(単条孔胞子; シダ類)、*Trilite type spore*(三条孔胞子; ワラビ他)

各層の堆積状況および水分含有量等の違いが花粉・胞子の保存に大きな影響を与えているものと考えられ、各層で花粉・胞子の出現数が大きく異っている。14層の黒褐色粘土質腐植土は水分に富んでいたため、腐植土では最も古い時代に堆積し、堆積してから長い年月を経ていて風化作用を最も長く受けていたにもかかわらず、試料中に含まれていた花粉・胞子が最も良い状態で保存されており出現数も高いものとなっている。それは、花粉・胞子の保存にとって水

分が大きな意味を持っていることを示すものであろう。

全般に花粉・胞子の出現数は少ないが、樹木では落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Quercus*・*Fagus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・*Araliaceae*が多く出現し、草本では *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Umbelliferae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Cichorioideae*・*Gramineae*が多く、胞子では *Osmundaceae*・*Monolate type spore*が多く出現している。

1) 縄文時代前期末(円筒下層式土器)の遺物包含層 14層から11層までの遺物包含層からは、落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・*Araliaceae*と、草本・胞子の *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Umbelliferae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Cichorioideae*・*Gramineae*・*Cyperaceae*・*Equisetaceae*・*Lycopodiaceae*・*Osmundaceae*・*Monolate type spore*を主とした花粉化石群集が確認された。樹木では *Juglans-Pterocarya*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*が多く出現しているが *Quercus*が優勢で、草本・胞子では *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Umbelliferae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Cichorioideae*・*Gramineae*・*Cyperaceae*・*Monolate type spore*が多いが *Gramineae*が優先している。この花粉化石群集は、砂層に接した14層で顕著に見られる。樹木の *Carpinus*・*Corylus*・*Morus*・*Rhus*・*Ilex*は14層で多く出現するが、上位では出現数が減少する傾向を示す。同様の傾向は草本・胞子の *Labiatae*・*Valerianaceae*・*Guttiferae*・*Typhaceae*・*Cyperaceae*・*Liliaceae*・*Lysichiton*・*Equisetaceae*にも見られる。針葉樹の出現数は少なく、*Abies*と北海道に自生分布していない *Tsuga*が僅かに出現しているだけである。

2) 縄文時代中期初頭(円筒上層式土器)の遺物包含層 8層から6層中位までの遺物包含層では、落葉広葉樹の *Salix-Populus*・*Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・*Araliaceae*と、草本・胞子の *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Umbelliferae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Cichorioideae*・*Gramineae*・*Osmundaceae*・*Monolate type spore*を主とした花粉化石群集が確認されている。前の時代とほぼ同様な花粉化石群集であるが、樹木の *Carpinus*・*Corylus*・*Morus*・*Rhus*・*Ilex*と、草本・胞子の *Labiatae*・*Valerianaceae*・*Guttiferae*・*Typhaceae*・*Cyperaceae*・*Liliaceae*・*Lysichiton*・*Equisetaceae*は僅かに出現するか、全く出現しなくなる。針葉樹の出現数も極めて少ない。多く出現しているのは樹木では落葉広葉樹の *Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*、草本・胞子では *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Gramineae*・*Monolate type spore*である。

3) 縄文時代後期遺物包含層 6層から4層中位までの遺物包含層でも、落葉広葉樹の *Alnus*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・*Araliaceae*と、草本・胞子の *Polygonaceae*・*Ranunculaceae*・*Umbelliferae*・*Artemisia*・*Carduoideae*・*Cichorioideae*・*Gramineae*・*Monolate type spore*を主とした花粉化石群集が確認された。前の時代の花粉化石群集とほぼ類似した構成で、主要構成種に大きな変化はないものの、針葉樹の *Abies*が僅かではあるが多くなり、*Picea*が初めて出現するほか、落葉広葉樹の *Salix*・*Populus-Juglans*・*Pterocarya*・*Alnus*・*Ulmus*と草本・胞子の *Cichorioideae*・*Osmundaceae*・*Lycopodiaceae*が前の時代よ

り減少している。また、一時的にはあるが、草本の Polygonaceae が急増しているのか特徴的である。

4) 縄文時代晩期中葉遺物包含層 4層では針葉樹の *Abies* と落葉広葉樹の *Juglans-Pterocarya*・*Alnus*・*Castanea*・*Fagus*・*Quercus*・*Ulmus*・*Acer*・*Tilia*・*Araliaceae* と、草本・胞子の Polygonaceae・Ranunculaceae・Umbelliferae・*Artemisia*・Carduoideae・Cichorioideae・Gramineae・Monoliate type spore を主とした花粉化石群集が確認された。前の時代とはほぼ同様な花粉化石群集であるが、*Juglans-Pterocarya* がいくぶん増えているほか、針葉樹の *Abies*・*Picea* のほかに *Pinus*・*Cryptomeria* も出現し、*Abies* が前の時代よりも多くなっているのが特徴である。

3 古植生について

1) 縄文時代前期末から中期初頭の古植生

14層から6層中位までの土壌で確認された花粉化石群集は、含まれていた遺物から縄文時代前期末から中期初頭にかけての植生を反映したものである。

ここで確認された花粉化石群集から、当時遺跡周囲の丘陵上にはミズナラ・コナラ・ブナ・オニグルミ（サワグルミ）・ヤナギ類（ドロノキ）・ハンノキ・ケヤマハンノキ・サワシバ・ハシバミ（ツノハシバミ）・ハルニレ・キハダ・カエデ類・シナノキ・ハリギリ・コシアブラ等を主な構成種とした落葉広葉樹林が分布していたことが推定される。しかし、オオイタドリ・カラマツソウ・エゾニユウ・オオヨモギ・アザミ類・アキタブキ・ススキ・イワノガリヤス・シダ類・センマイ等を主とした陽地性草本群落が繁る草地も広がっていたようで、遺跡のまわりの森林密度はさほど濃いものではなかったようである。

14層の腐植質粘土が堆積した頃は遺跡周囲には低湿地か小沢が存在していて水位が高かったようで、低湿地やその周囲に多くみられるハンノキ・ヤナギ類・ヤチダモ等の樹木が比較的多く出現しているほか、ミズバショウ・エゾアブラガヤ・スゲ類・ガマ・ミゾソバ等の草本類もこの層から比較的多く出現している。しかし、13層より上位では湿地も次第に乾燥していったようで、これらの樹木や草本の出現率が低下している。

個々の花粉・胞子の出現状況には小さな変動が見られるが、主要な構成樹種や草本に大きな変化はなく、縄文時代前期末から中期初頭にかけての時期には、遺跡の周囲にミズナラ・ブナを主とした森林が分布していたといえよう。

さて、縄文時代前期から中期にかけてはいわゆる「縄文海進」で代表されるように、気候的には現在よりも温暖な時期であった。この時期の古植生は塚田（1981）による RII 帯の花粉帯で示されているように、北東日本では落葉樹林が最大に発達した時期で、北海道ではこの時期にコナラ亜属を最優占種とし、ニレ属・シナノキ属・カバノキ属・ブナ属などを加えた落葉広葉樹の安定した混成群落がみられるとされている。ここで問題となるのがブナがいつ頃渡島半島に進出したかである。塚田（1981）ではその時期を RII 帯の終り頃（約7,000年前頃）と推定しているが、ブナがいつ頃道内に進出したかを示す確たる証拠は未だ得られてはいない。し

かし、渡島半島に分布しているブナ・ミズナラ林が各地に進出し、さらには現在ブナの自生北限地となっている黒松内低地帯まで分布域を拡大したのは、気候が温暖であった縄文時代前期から中期にかけた時期であることは確かである（山田ほか・1979）。

木古内町新道4遺跡で行ったこのたびの花粉分析により、縄文時代前期末の遺物包含層ミズナラ・ブナ群落の存在を物語る花粉化石群集が確認されたことは、これまで縄文時代早期頃にブナが道内に進出してきたと漠然と考えられてきていたのに対して、縄文時代前期末には木古内町周辺でミズナラ・ブナ群落が森林を構成していたことを確認したものであり、渡島半島へのブナの進出を考える上で意味が大きいものである。

2) 縄文時代後期から晩期中葉の古植生

前の時代と同様に遺跡が位置した丘陵上には、ミズナラ・ブナ群落を主とした森林が分布していたが、針葉樹の花粉が徐々に増加している傾向は、背後の山地や周辺の山地に針葉樹のトドマツが進出するとともに、全道的にトドマツ・エゾマツ等の針葉樹が増えていたことを意味するものであろう。現在、知内地区がトドマツの自生南限となっているが、このトドマツはこの時期に知内地区に進出したものと考えられる。この時期は温暖であった気候を背景とした「縄文海進」が終り、海水面は現在と同じかやや低い位置にあったと予想され、気候的にも現在よりも幾分冷涼であったと推定されており、針葉樹の増加は気候の冷涼化を反映したものと考えられる。この時期の植生は塚田(1981)による RIIIa 帯の花粉帯に対比することが可能で、中部日本の山地帯や北東日本ではブナ減少開始期と亜寒帯針葉樹林増加開始期であるとされている。

4 堅果類について

このたび花粉分析を行った試料からは食用となる堅果が実るコナラ亜属・クルミ属・クリ属の花粉が、出現率の違いはあるもののほぼ連続して検出された。また、縄文時代前期末の遺物包含層では、食用となる堅果が実るハシバミ（またはツノハシバミ）の花粉が僅かではあるが一時的に出現していて、周囲に生育していたことを示している。

ここでは、やはり食用となる堅果が実るトチノキの花粉は検出されなかったが、トチノキは沢沿いの幾分湿潤な土地を好むことから、上記の他の樹木とは生態的な違いがある。このたびの花粉分析で検出されなかったとしても不思議はないものの、遺跡近くの沢沿いにはこの頃すでに生育していたと推定される樹木である。遺跡が位置する台地の前面には海岸に並行して低湿地が広がっているが、この低湿地を流れる重内川の流域は、縄文時代中期末から後期に対比される泥炭質粘土や泥炭からトチノキの花粉が検出されていて、トチノキが台地上に分布していたのは確かである（山田・1979）。

コナラ亜属のミズナラ・コナラ・カシワ、クリ、ハシバミ（ツノハシバミ）、オニグルミは陽地性の樹木で、在来植生が破壊された跡に二次林を形成したり、林の縁辺部に多くみられる樹木で、当時遺跡に居住していた人々による居住空間の確保や薪炭材の伐採等による活動で、林の一部が切り開かれた跡にこれらの樹木が入りこんでいたことが予想される。

オニグルミは生食することができることから、道内でも縄文時代早期から近世までの各時代の遺跡で遺体が出土していて、食料になっていたことが確認されている（山田・1986）。新道4遺跡でも縄文時代前期後半に位置づけられる可能性をもったフラスコ状ビット（BP-65）からオニグルミの核片が出土しているのを初めとして、中期末から後期初頭の住居址（BH-6、BH-9）や発掘区からも核の出土が報告されており（千葉・1986）、遺跡周辺に生育していたオニグルミが利用されていたことを示している。また、縄文時代中期末から後期初頭にかけた時期の住居址（BH-6・BH-9・BH-16）から、クリの果肉や構造物材として利用されたクリ材が出土していて、クリが当時の居住者によって色々な用途に利用されていたことが明らかになっている。

クリは縄文人にとって食料・住居の構造物材・薪炭材として利用され、管理保護されていたであろうことは西田（1980）、千野（1984）によって指摘されており、縄文時代において有用な樹木の一つであった。

今のところ、縄文時代で最も古いクリの花粉は函館市中野B遺跡（縄文時代早期）で確認されていて、北海道のクリの歴史は縄文時代早期まで遡ることがあきらかにされている（五十嵐・1977）。五十嵐（1977）によると縄文時代早期後半には同遺跡の周辺にクリが生育していたようで、縄文時代のかかなり古い頃にすでにクリが北海道に上陸していたのは確かなようである。しかし、遺跡から堅果や炭化材が出土して先史時代の人々に利用されたことが明らかになるのは、南茅部町ハマナス野遺跡の住居址（縄文時代中期初頭）からのクリの堅果が出土するのを待たねばならない（南茅部町教育委員会・1984）。クリの堅果・堅果皮はその後中期末から続縄文時代までの石狩低地帯以西の遺跡から発見され、先史時代の人々の食料になっていたことが報告されている。（山田・1986）。クリの花粉の存在は遺跡近くにクリが生育していたことを示すものであり、新道4遺跡では今のところ縄文時代前期末の遺物包含層からクリの遺体は発見されていないが、食用するにあたって特別な処理を必要としない堅果が食料になっていたと考えてもいいであろう。

また、遺跡の周囲にはコナラ亜属のミズナラ・コナラがクリよりも多く生育していたことは、花粉の出現数から推定できる。これらの樹木の堅果も食用となるが、食用するにあたっては堅果に含まれているアク（タンニン）を除去しなければならない。コナラ亜属のドングリからアクを抜く技術が開発されたのは、東北地方北半でその時期は縄文時代前期頃と推定されている（渡辺・1985）。しかし、札幌市のS-256遺跡や豊頃町の高木1遺跡の縄文時代早期の住居址からミズナラの炭化した堅果が出土していて（上野・1975、北川ほか・1984）、食用にされた時期はさらに古く遡る可能性が残されている。その技術が東北地方北半で開発されたのが確実であれば、土器文化圏を共有していた北海道にも伝播していたと考えられるし、縄文時代早期にすでに食用になっていたことが明白であることからすれば、アク抜き技術の存在の有無に関わらずに、前期にはオニグルミ・クリとともに食用にされていたと考えられるのである。

だが、なぜか縄文時代前・中期の遺跡からはドングリが食料になっていたことを示す証拠は

得られていないのである。

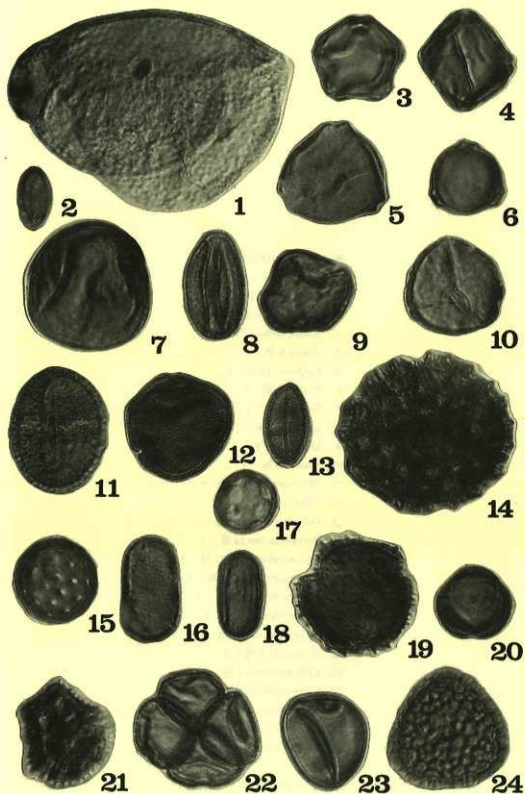
いずれにしても、新道4遺跡の周辺には温暖な気候を背景として、縄文時代前期末までには食用可能な堅果が実るミズナラ・コナラ・カシワ・オニグルミ・クリ・ハシバミ（ツノハシバミ）が分布していて、これらの堅果が時には食事のメニューに加わっていたのは確かであろう。また、堅果や花粉は確認されていないが、トチノキのアク抜き技術が開発されたとされている縄文時代中期以降には（渡辺・1985）、複雑なアク抜き処理をしてトチノキの堅果も食料として利用されていた可能性が残されているのである。

引用・参考文献

- 千野裕道（1984）「縄文時代のクリ」『歴史公論』第10巻第6号雄山閣
- 千葉英一（1986）「自然遺物」『木古内町建川1・新道4遺跡』北海道埋蔵文化財センター
- 五十嵐八枝子（1977）「函館空港遺跡周辺の表層地質と花粉分析」『函館空港第4地点・中野遺跡』函館市教育委員会
- 北川芳男他9名（1984）「中川郡豊頃町高木1遺跡第4次発掘調査概報」『北海道開拓記念館調査報告書』第23号
- 南茅部町教育委員会（1984）『ハマナス野遺跡X』
- 西田正規（1980）「縄文時代の食料資源と生業活動」『季刊人類学』11-3
- 塚田松雄（1981）「過去一万二千年間—日本の植生変遷史II、新しい花粉帯」『日本生態学会誌』Vol. 31, No. 2
- 上野秀一（1975）「植物遺体について」『札幌市文化財調査報告書S-256遺跡』札幌市教育委員会
- 山田悟郎・矢野牧夫・三野紀雄・瀬川秀良・尾上博章（1979）「北海道渡島半島の第四系より産出する植物化石III」『北海道開拓記念館研究年報』第7号
- 山田悟郎（1986）「北海道における先史時代の植物性食料について」『北海道考古学』第23輯
- 渡辺 誠（1985）「縄文時代の食生活」『考古学ジャーナル』No. 256

新道4遺跡から産出した花粉・胞子

L-66グリッド	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	6-1	6-2	6-3	6-4	8-1	8-2	8-3	8-4	11-1	11-2	11-3	11-4	13-1	13-2	14-1	14-2
<i>Abies</i>	8	6	4	5	3	3	—	2	1	—	—	1	—	—	1	1	—	2	2	3	—
<i>Picea</i>	3	2	2	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<i>Pinus</i>	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<i>Tsuga</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—
<i>Cryptomeria</i>	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
<i>Salix-Populus</i>	1	2	—	—	—	2	1	8	9	6	2	6	5	8	5	1	1	—	3	4	7
<i>Juglans-Pterocarya</i>	6	6	1	1	—	4	—	—	1	—	2	4	8	6	1	1	1	2	9	11	15
<i>Carpinus</i>	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	—	3	6	3	—
<i>Corylus</i>	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2	2	3	—
<i>Betula</i>	3	2	3	3	2	2	2	2	3	1	4	2	7	6	2	1	—	1	1	3	2
<i>Alnus</i>	16	9	5	5	3	14	5	6	5	11	16	14	13	14	15	12	12	14	21	26	22
<i>Castanea</i>	5	5	3	1	—	6	4	8	2	6	2	3	2	5	3	—	—	1	1	4	8
<i>Fagus</i>	14	11	6	9	1	26	23	22	24	19	15	26	21	28	21	19	21	16	27	32	28
<i>Quercus</i>	41	32	18	16	6	42	31	44	49	28	27	46	48	46	42	33	39	32	39	58	63
<i>Ulmus</i>	18	4	3	5	1	14	5	8	5	12	9	11	9	13	11	6	5	9	12	9	14
<i>Morus</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	1
<i>Magnolia</i>	—	—	1	—	—	2	—	1	—	—	—	1	—	1	—	—	1	—	2	1	—
<i>Hydrangea</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	1
<i>Rubus</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	1	1
<i>Phellodendron</i>	1	2	1	—	—	2	—	1	—	1	—	1	1	1	—	—	—	—	—	1	1
<i>Rhus</i>	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	2	5
<i>Ilex</i>	1	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	—	1	3	3
<i>Acer</i>	1	3	1	2	1	8	2	4	3	—	1	4	6	4	4	1	2	1	5	7	8
<i>Tilia</i>	11	5	2	3	—	3	1	3	1	4	3	2	5	4	3	1	2	2	7	8	4
<i>Araliaceae</i>	8	2	3	5	—	4	5	6	3	—	2	5	6	2	3	1	1	—	3	5	7
<i>Fragaria</i>	1	—	—	—	—	2	—	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	1	2	4
Polygonaceae	22	35	31	23	3	158	24	11	23	6	16	27	25	12	18	3	23	19	33	51	58
Chenopodiaceae	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—
Caryophyllaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
Ranunculaceae	14	11	13	7	1	26	23	11	19	44	8	12	18	6	12	1	5	2	22	11	28
Cruciferae	2	—	—	—	1	1	—	1	—	—	1	3	1	—	1	1	1	1	2	1	—
Rosaceae	1	—	1	—	—	1	1	1	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	1	1	1
Leguminosae	1	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	1	—	1
Balanaceae	1	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	2	3	1
Guttiferae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	1
Umbelliferae	6	5	11	3	1	12	9	2	8	2	7	4	6	11	12	2	—	—	2	16	21
Labiatae	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1
Valerianaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	3	—
<i>Artemisia</i>	28	36	21	13	2	14	11	16	31	61	57	60	55	42	22	2	11	14	21	24	33
Carduoidae	16	24	38	7	2	42	44	61	64	15	16	8	14	10	13	4	27	16	27	38	42
Cichorioidae	3	3	5	2	1	3	6	10	9	2	9	14	9	1	1	1	9	6	9	18	21
Typhaceae	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	5	1
Gramineae	158	131	81	43	28	166	118	71	87	124	113	151	125	118	89	23	41	38	132	168	179
Cyperaceae	3	—	—	—	—	3	—	—	—	1	3	6	2	3	1	2	—	2	9	12	22
Liliaceae	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	1	—	—	—	1	2	3
<i>Lysichiton</i>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	5
Equisetaceae	2	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	1	4	7
Lycopodiaceae	2	—	3	1	—	1	2	1	1	5	2	1	4	4	3	2	—	2	1	9	3
Osmundaceae	1	1	—	—	—	3	1	2	3	8	3	8	7	11	4	3	5	1	5	2	12
Monolate type spore	67	24	28	19	14	62	37	6	12	15	29	32	54	64	42	33	47	26	45	51	54
Trilete type spore	1	3	—	1	—	2	1	—	—	1	1	2	1	1	1	—	1	—	4	3	3
Total grains	472	368	288	177	69	634	357	309	364	373	349	461	364	432	330	159	256	207	465	624	693 (概)
同定不能花粉	2	1	1	3	1	1	3	7	1	3	4	2	1	6	4	3	5	1	1	9	6 (概)



産出した主な花粉化石

1. *Picea*, 4 層 - 1、
2. *Salix-Populus*, 14 層 - 2、
3. *Abus*, 14 層 - 2、
4. *Alnus*, 6 層 - 1、
5. *Carpinus*, 14 層 - 1、
6. *Betula*, 8 層 - 2、
7. *Fagus*, 6 層 - 1、
8. *Quercus*, 6 層 - 1、
9. *Quercus*, 14 層 - 1、
10. *Ulmus*, 4 層 - 1、
11. *Phellodendron*, 4 層 - 2、
12. *Tilia*, 4 層 - 1、
13. *Polygonaceae*, 6 層 - 1、
14. *Polygonaceae*, 14 層 - 2、
15. *Chenopodiaceae*, 11 層 - 1、
16. *Balasaminaceae*, 14 層 - 1、
17. *Ranunculaceae*, 8 層 - 1、
18. *Umbelliferae*, 14 層 - 1、
19. *Valerianaceae*, 14 層 - 1、
20. *Artemisia*, 8 層 - 3、
21. *Cichorioideae*, 8 層 - 3、
22. *Cichorioideae*, 8 層 - 3、
22. *Typhaceae*, 14 層 - 1、
23. *Gramineae*, 4 層 - 1、
24. *Lycopodiaceae*, 14 層 - 1

(倍率は 800~1,000 倍)

7. まとめ

今回の調査結果を挙げ、まとめとする。

1. 後期後葉の出入口部分のある被火災住居跡 (CH-2) について

後期後葉の堂林式土器を出土した被火災住居跡 (CH-1・2) を2軒検出したが、全体のプランのわかるのは、CH-2の1軒である。道南部において後期後葉の住居跡で、出入口施設のわかる例は今回初めてである。また被火災住居跡なので、この時期の住居の上屋構造や土器、石器等の組成を考える上で貴重である。上屋構造の復原については奈良国立文化財研究所の宮本長二郎氏の所見を載っている。

平面プランと付属施設について

縄文時代中期中葉の榎林式土器の時期の住居跡を壊して構築している。確認面において地山の第VI層に約70cm程の掘り込みが認められた。平面形はほぼ長軸を南北にとる楕円形であるが、東側の中央部が竪穴内側に向って傾斜した張り出し部をもつ。張り出し部は踏み固められ締まっている。それに沿って両側に土留のために棒状、板状のものを埋込んだと思われる溝状ビットがある。これらのことから、この張り出し部を出入口施設と考えた。柱穴は竪穴内で6個検出されている。主柱穴は4本からなり、住居跡のほぼ中央部で台形状に配位されている。炉は地床炉で、中央よりわずかに出入口部分寄りにある。竪穴内の壁際からビットが2基検出されている。出入口施設の正面と南側にある。

遺物の出土状態について

本住居跡は床面からの出土遺物が多く、後期後葉の土器組成、石器組成の一部を示しているものと思われる。床面出土の土器には浅鉢形土器と小型台付土器、口縁部欠失土器の3個体がある。小型台付土器は出入口施設際の西側から、浅鉢と口縁部の欠失した土器は南側壁際から出土している。石器は石鏃を除く主要な石器が出土している。石皿、台石、たたき石は出入口施設付近からとまって、ドリル・スクレイパー、磨製石斧・コアは南側壁際から出土している。また、東側壁際から編物状炭化物（アンベラ）が出土している。

小 括

北海道において、本竪穴に類似した出入口部と思われる張り出し部をもつものは少ない。千歳市美沢1遺跡で、溝状ビットはないが、張り出し部分、地床炉をもつものがある (FH-16)。時期は本竪穴と同じ後期後葉である。登別市川上B遺跡C地区で張り出し部をもたず、壁際に2個の溝状ビット・石組炉の抜き取り痕のある住居跡 (CH-70) が検出されている。青森県において溝状ビットをもつ例として、鶴窪遺跡、八戸市丹後谷地遺跡、馬場瀬遺跡などがある。出入口施設と想定される溝状ビットをもつ住居跡は、中期末葉から後期末葉にかけて関東・東北においてみられる。これらには平面形が円形や楕円形のもの、炉は石組み炉や地床炉、柱穴は4本や6本のものなどがあり、平面形態、炉のあり方、柱穴の配置等において、時期的、地域的に変化が見られそうである。本住居跡では、出入口部分付近から石皿、台石、たたき石が、南側壁際からスクレイパー、ドリル、磨製石斧、コアが出土している。このことから、本竪穴

住居跡内での出入口施設付近と南側部分での作業内容の違いを示していることが想定される。

2. 遺物について

(1) 前期末葉のⅡ群B類土器の集中とそれに伴う漆器と木製品の出土状況について

調査区東側の斜面下の沢底、K-66、67からⅡ群B類土器が集中して出土した。土器の出土層位は、厚い砂礫層下位の黒色粘土質土層である。土器は、多くのものが潰れた状態でまとまって出土したことから、半完形ないしは大破片のことが多い。これらの口頸部文様帯には、縄線文が施されている。口頸部の幅の狭いものには、数段の平行する縄線が施されている。口頸部の幅の広いものには矢羽状、三角入子状等の縄線文が施されている。体部の文様には、縷糸文と多軸絡条体の回転文があり、両者は共に伴って出土している。この集中地点の斜面上の平坦面には同じ文様構成をもつ土器が出土した住居跡があり、この時期の土器捨場と思われる。

Ⅱ群B類土器の集中に挟んで、赤色盆状の漆器が出土している。大きさは現存径40×22cmである。縄文時代前期の漆器としては福井県鳥浜貝塚のものが知られている程度で類例も少ない。また周辺の同層から石斧柄、両端に切断痕のある半截された丸太材、加工痕のある材を含む96点の材が出土している。これらは北海道の縄文時代前期末葉の円筒土器文化を考える上で貴重なものである。

(2) 後期前葉の土器について

本地区の沢の西側斜面において、Ⅳ群A₂類土器が集中して出土している。主体はトリサキ式である。類似する資料を出している遺跡として、上ノ国町四十九里沢、尻岸内古武井9遺跡、福島町館崎、知内町湯の里1遺跡、乙部町栄浜遺跡、登別市川上B遺跡C地区等がある。湯の里1遺跡を除きほとんど破片資料である。本地区出土資料の体部文様には、横位の「S」字状、「J」字状、波状等の文様が入組文的に横位に展開されるものと、「C」字状、「J」字状、「S」字状、渦巻状等の文様が入組文的に縦位に展開されるものがある。本地区の復原資料は、湯の里1遺跡のものと器形・文様構成、文様要素において類似するものが多いが、湯の里1遺跡の資料ではみられなかった。地文上に体部文様として「S」字状、波状の入組文が横位に展開されているものが出土している。この資料を含め、体部文様の展開方向の違いや文様要素の違いが時間差を示すものなのか、文様のバリエーションとして共存するものなのか掴むことが出来なかった。

大津式は文様構成、文様要素において出土地点に大きく異にして出土している。昭和60年度の本遺跡B地区盛土地区で盛土2類とされたものに類似する。口縁部に弧状の貼付帯をもち、体部に搔拭工具による条線文、または縄文が施され、太い沈線で縁取りが加えられたものが、沢の西側斜面から沢底にかけて出土している。比較的幅の広い無文の口頸部をもつ。体部にカギの手状、雷文状、カニのハサミ状、入組文状などの曲線的な文様をもち、盛土3～5類とされたものに類似するものが東側平坦部から東側斜面にかけて多く出土している。これは大津式の中でも文様構成、文様要素によって明確に時間差があることを示しているものと考えられる。

(3) 晩期中葉の土器について

調査区東側平坦面から斜面肩部分にかけて、V群B類が出土している。器種には、浅鉢形、深鉢形、皿形、壺形、台付土器がある。粗製のものが多い。体部文様のわかるものは少ないが、雲形文、横位連繫入組文などがある。口頸部は強く内湾するものが多い。頸部は無文帯のものと3～4条の沈線が施されたものがある。また三角形の刺突列が頸部無文帯下端や頸部沈線内に加えられているものもある。口頸部下端直下には、頸部沈線施文前に施された2個一対の粘土瘤、刻み目のある粘土瘤が施されているものが多い。これらの特徴は札幌II群土器の古い段階のものに共通するもので、この時期の混入の少ないとまった良好な資料である。

(4) 石器について

遺構、包含層から多種多様な石器が得られている。被災住居跡から後期末葉の堂林式土器に伴う石器群の一部が明らかになったものと思われる。包含層においては、一部の特殊な石器を除き土器と石器の対応関係を把握することが出来なかった。CH-7覆土・包含層出土の石器の中には、穿孔をもち、形態が半月形になるとと思われるものがある。その完形品の形態は極めて「石包丁」に類似しているが、しかし、北海道において類例がなく、石質が砂岩であること、刃部加工が不明瞭であること、石包丁に伴わないような土器群が認められないことなどから石鋸として扱った。今後、資料の増加をまって検討したい。

(5) 木製品について

本地区、沢部分のII群B類土器（縄文時代前期末葉）集中地点周辺の同一層から出土したものである。木製品、加工痕のある材を含む96点の材が出土している。形態は、石斧柄と思われるもの、杭状、棒状、割板状のものがある。大きさは、長さ220×径30cmの丸太材を半截した大型のものから、長さ10cm程度の小破片までである。石斧柄は固定部を欠失するが、ほぼ完形に近いものである。接合関係が認められる大型の丸太材も一例出土している。半截技術を知る上で貴重なものである。ほとんどのものが現在、ポリエチレングリコール含浸による保存処理中のため本報告に掲載できなかった。真空凍結乾燥による保存処理が終了した4点のみ掲載した。

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 (1974) 『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告第25集
 " (1983) 『鶴窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第76集
 " (1981) 『山崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第68集
 " (1981) 『馬場瀬遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第70集
 秋元信夫ほか (1984) 『天戸森遺跡』鹿角市教育委員会
 石川政治 (1963) 『函館天祐寺貝塚』『石器時代』6,
 石本省三ほか (1983) 『添山』上磯町教育委員会
 今井富士雄・磯崎正彦 (1968) 『十腰内遺跡』『岩木山—岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書』
 江坂輝彌 (1970) 『石神遺跡』(ニュー・サイエンス社)
 大島直行・瀬川拓郎 (1982) 『札幌台地の縄文時代集落址』登別市教育委員会
 大沼忠春ほか (1976) 『元和』乙部町教育委員会
 " (1977) 『栄浜遺跡』乙部町教育委員会
 大沼忠春 (1981) 『北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について』『考古学雑誌』

66-4

- 大場利夫ほか (1958)『サイベ沢遺跡』市立函館博物館
 大場利夫・蛭子千代志 (1965)「函館郊外練互台遺跡」『北方文化研究報告』20
 小笠原忠久 (1984)『古武井9遺跡』尻岸内町教育委員会
 " (1984)「北海道西南部における縄文時代前・中期の集落」『北海道の研究』1
 岡本勇ほか (1979、1981、1983、1984)『鳥浜貝塚』福井県教育委員会
 久保泰ほか (1979)『鬼沢B遺跡・棚石遺跡調査報告』松前町教育委員会
 倉谷泰賢・小笠原忠久 (1972)『大安在B遺跡』上ノ国町教育委員会
 斉藤保ほか (1974)『松前町大津遺跡発掘報告書』松前町教育委員会
 西達寺建 (1976)『松前町原口遺跡発掘調査報告書』松前町教育委員会
 佐藤忠雄 (1975)『鳥崎遺跡』森町教育委員会
 沢四郎 (1962)『東釧路』釧路市教育委員会
 清水和男・佐藤忠雄 (1975)『館崎』福島町教育委員会
 鈴木克彦 (1984)『亀ヶ岡石器時代遺跡』青森県立郷土館
 芹沢長介 (1979)『聖山』東北大学文学部考古学研究会
 其田良雄 (1974)『上ノ国町四十九里沢A遺跡』上ノ国町教育委員会
 高橋正勝 (1966)「函館市見晴町遺跡の資料」『北海道青年人類科学研究会会誌』8
 高橋正勝 (1974)「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道西南部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化』31
 田村文夫 (1985)「V、住居空間と考古学」『縄文集』ニュー・サイエンス社、考古学ライブラリー 36
 千代隆 (1972)『涌元遺跡』知内町教育委員会
 千代隆・石本省三 (1981)『尾白内一統縄文遺跡の調査研究』
 角田文衛 (1939)『陸奥榎林遺跡の研究』『考古学論叢』10
 中村斉・野村崇 (1976)『札苺』北海道開拓記念館
 名取武光ほか (1958)「入江貝塚」『北方文化研究報告』13
 野村崇・宇田川洋 (1967)『長沼町幌内堂林遺跡調査報告』長沼町教育委員会
 野村崇ほか (1974)『札苺遺跡』木古内町教育委員会
 八戸市教育委員会 (1986)『丹後谷地遺跡』
 北海道開拓記念館 (1980)『熊野喜藏氏資料目録Ⅱ』(鳥崎川遺跡)
 北海道教育委員会 (1978)『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』
 北海道埋蔵文化財センター (1983)『登別市川上B遺跡』
 " (1985)『湯の里遺跡群』
 " (1986)『登別市川上B遺跡C地区』
 " (1986)『上ノ国町小岱遺跡』
 " (1986)『知内町湯の里3遺跡』
 " (1986)『木古内町建川1・新道4遺跡』
 三浦孝一・柴田信一 (1983)『八雲町栄浜1遺跡発掘調査報告書』八雲町教育委員会
 峰山巖ほか (1974)『松前町高野遺跡発掘調査報告』松前町教育委員会
 峰山巖・大島直行 (1975)『森越』知内町教育委員会
 " (1979)『知内川中流域の縄文時代の遺跡』知内町教育委員会
 三宅徹也 (1982)『円筒土器』『縄文文化の研究』3
 村越源 (1974)『円筒土器文化』雄山閣 考古学選書 10
 森田知忠 (1967)『サイベ沢B遺跡調査報告』市立函館博物館、亀田町教育委員会
 森田知忠・中田幹雄・山田悟郎ほか (1974)『西股』北海道第四紀研究会
 森田知忠 (1981)「北海道」『縄文土器大成』3、講談社
 山岸英夫 (1983)「白坂第3地点の調査・第14類土器総括」『白坂』松前町教育委員会
 山内清男・磯崎正彦 (1964)『原始美術』1 講談社
 吉崎昌一 (1965)「縄文文化の発展と地域性、北海道」『日本の考古学』Ⅱ
 吉崎昌一ほか (1979)『聖山』七飯町教育委員会

C地区焼土一覧表

表Ⅷ-1

焼土番号	位 置	規模(長軸×短軸×厚さ)	焼土番号	位 置	規模(長軸×短軸×厚さ)
C F-1	O -63	1.74 × 0.75 × 0.08	C F-29	N・O-66・67	1.00 × 0.47 × -
-2	#	0.67 × 0.52 × 0.05	-30	M -67	0.48 × 0.42 × -
-3	N -63	0.89 × 0.84 × 0.09	-31	M -66・67	0.60 × 0.37 × -
-4	O -64	0.62 × 0.52 × 0.18	-32	*	0.42 × 0.40 × -
-5	O -69	0.69 × 0.61 × 0.06	-33	O -65	0.95 × 0.64 × -
-6	#	0.97 × 0.48 × 0.03	-34	L -69	0.85 × 0.45 × 0.16
-7	*	0.78 × 0.54 × 0.11	-35	*	0.20 × 0.16 × -
-8	*	0.32 × 0.28 × 0.11	-36	L -68	1.18 × 0.70 × 0.10
-9	*	0.52 × 0.41 × 0.12	-37	*	0.80 × 0.52 × -
-10	N -69	0.86 × 0.53 × 0.12	-38	*	0.33 × 0.29 × -
-11	O -68	0.85 × 0.46 × 0.10	-39	*	0.31 × 0.25 × -
-12	M -67	0.19 × 0.18 × -	-40	*	0.48 × 0.41 × -
-13	M -68	0.23 × 0.22 × -	-41	L・M-68	0.82 × 0.55 × -
-14	M -67・68	0.51 × 0.21 × -	-42	*	1.15 × 0.66 × -
-15	M -67	0.64 × 0.33 × -	-43	M -65・66 N -65	0.78 × 0.28 × -
-16	M・N-68	1.55 × 0.76 × 0.08	-44	M -67	0.37 × 0.20 × -
-17	O -68	0.16 × 0.13 × -	-45	N -66	1.43 × 1.05 × 0.10
-18	N -68	0.36 × 0.24 × -	-46	*	0.21 × 0.09 × -
-19	N -67・68	1.01 × 0.71 × -	-47	M -67	0.32 × 0.26 × -
-20	N -67	0.86 × 0.56 × -	-48	O -68	0.58 × 0.43 × -
-21	N -69	0.58 × 0.38 × -	-49	*	0.25 × 0.16 × -
-22	N -68	0.27 × 0.23 × -	-50	N -68	0.51 × 0.37 × -
-23	M・N-68	0.52 × 0.40 × -	-51	O -65	0.50 × 0.37 × 0.08
-24	N -68	0.80 × 0.64 × -	-52	*	0.25 × 0.21 × 0.04
-25	M・N-68	0.48 × 0.35 × -	-53	*	(0.38) × (0.40) × (0.08)
-26	O -65	0.42 × 0.21 × -	-54	N -68	0.44 × 0.44 × -
-27	O -66	0.34 × 0.25 × -	-55	J -62・63	4.10 × 2.80 × -
-28	*	0.78 × 0.55 × 0.04			

包含層出土遺物一覧表

表Ⅶ-2

名 称	数 量	名 称	数 量
土 器	138,263	石 鍾	5
石 鏃	357	石 冠	1
ドリル	38	石 刀	3
ポイント・ナイフ	78	擦切痕ある礫	5
つまみ付ナイフ	64	フレイク	32,660
スクレイパー	781	Uフレイク	2,175
楔形石器	17	Rフレイク	433
三脚石器	3	コ ア	2,189
トランシェ様石器	4	礫 [△]	1,102
異形石器	2	焼 礫	22
磨製石斧	84	礫	69,156
礫 器	5	石 器 計	110,367
石 鋸	10	土 製 品	55
すり石	385	石 製 品	17
たき石	235	木器・木製品	96
くぼみ石	116	漆器・漆塗製品	1
砥 石	114	アスファルト塊	1
石皿・台石	323	合 計	248,800

全遺構出土遺物一覧表

表Ⅶ-3

名 称	数 量		名 称	数 量	
	覆 土	床 面		覆 土	床 面
土 器	7,794	458	石皿・台石	27	7
石 鏃	24		石 鍾	2	
ドリル	5		フレイク	1,625	29
ポイント・ナイフ	7		Uフレイク	169	10
つまみ付ナイフ	6		Rフレイク	18	
スクレイパー	102	8	コ ア	109	2
楔形石器	1		礫 [△]	412	8
磨製石斧	15	1	焼 礫	6	
石 鋸	1		礫	4,252	36
すり石	52	3	石 器 計	6,866	110
たき石	21	4	土 製 品	1	1
くぼみ石	11	2	石 製 品	1	
砥 石	1		合 計	14,662	569

各遺構出土遺物一覧表

表Ⅶ-4-(1)

遺構番号	名 称	数 量		遺構番号	名 称	数 量	
		覆 土	床 面			覆 土	床 面
CH-1	土 器	1,052	2	CH-5	土 器	102	
	石 器	2			石 器 計	176	9
	ポイント・ナイフ	1			土 器	2,298	182
	つまみ付ナイフ	2			石 器	4	
	スクレイパー	4			ポイント・ナイフ	3	
	磨 製 石 斧	1			つまみ付ナイフ	1	
	す り	1			スクレイパー	25	
	石 皿・台 石	1			磨 製 石 斧	3	
	フ レ イ ク	239	1		す り 石	22	
	U フ レ イ ク	12			た た き 石	4	
	R フ レ イ ク	4			く ば み 石	3	
	コ	27			紙 石	1	
	燧 石	77			石 皿・台 石	9	
	燧 石	439	1		石 器	1	
CH-2	石 器 計	810	2		フ レ イ ク	346	5
	土 器	1,699	114		U フ レ イ ク	33	
	石 器	12			R フ レ イ ク	3	
	ドリル	2			コ	22	
	ポイント・ナイフ	1			燧 石	96	
	スクレイパー	14	4		焼 燧 石	2	
	磨 製 石 斧	3	1		燧 石 計	1,058	5
	す り 石	6			土 器	1,836	10
	た た き 石	5	2	CH-6	土 器	743	
	く ば み 石	3	1		石 器	1	
	石 皿・台 石	6	4		ドリル	1	
	フ レ イ ク	547	17		ポイント・ナイフ	1	
	U フ レ イ ク	31	4		つまみ付ナイフ	3	
	R フ レ イ ク	2			スクレイパー	28	
	コ	30	1		磨 製 石 斧	2	
	燧 石	116	3		す り 石	9	
	燧 石	1,342	16		た た き 石	2	
	石 器 計	2,120	53		く ば み 石	2	
	土 製 品	1			石 皿・台 石	2	
CH-3	土 器	173			フ レ イ ク	157	
	石 器	3			U フ レ イ ク	44	
	スクレイパー	3			R フ レ イ ク	5	
	磨 製 石 斧	2			コ	17	
	た た き 石	2			燧 石	55	
	石 皿・台 石	1			焼 燧 石	3	
	フ レ イ ク	53			燧 石 計	612	
	U フ レ イ ク	10			石 器 計	944	
	燧 石	9			土 製 品	1	
	燧 石	105		CH-7	土 器	241	
	石 器 計	188			石 器	1	
CH-4	土 器	254	2		スクレイパー	1	
	石 器	1			模 形 石 器	4	
	スクレイパー	1			磨 製 石 斧	1	
	磨 製 石 斧	1	2		す り 石	1	
	す り 石	1	1		た た き 石	1	
	く ば み 石	2	1		フ レ イ ク	41	
	石 皿・台 石	1			U フ レ イ ク	7	
	フ レ イ ク	50	1		コ	1	
	U フ レ イ ク	5			燧 石	6	
	R フ レ イ ク	1			燧 石	72	
	コ	2			石 器 計	138	
	燧 石	9	4				

表Ⅷ-4-(2)

遺構番号	名 称	数 量		遺構番号	名 称	数 量	
		覆 土	床 面			覆 土	床 面
CH-8	土 器	72		CH-13	焼 礫	1	
	ポイント・ナイフ	1			礫	5	
	スクレイパー	2			石 器 計	20	
	ナ リ 石	1			土 製 品		1
	フ レ イ ク	12			土 器	47	
	U フ レ イ ク	1			た た き 石	1	
	R フ レ イ ク	1			フ レ イ ク	4	
	コ ア	1			U フ レ イ ク	2	
	礫 [△]	4			礫 [△]	3	
	礫	47			礫	40	
CH-9	石 器 計	70		CP-4	石 器 計	50	
	土 器	101	1		土 器	40	1
	つまみ付ナイフ	1			フ レ イ ク	4	
	スクレイパー	2			コ ア	1	
	ナ リ 石	1			礫 [△]	2	
	た た き 石	1			礫	34	
	く ば み 石	1			石 器 計	41	
	フ レ イ ク	3			CP-5	土 器	37
	U フ レ イ ク	3			フ レ イ ク	1	
	礫 [△]	2			礫	3	
CH-10	礫	13			石 器 計	4	
	石 器 計	27			土 器	13	
	土 器	487	112		フ レ イ ク	3	
	ドリル	2			U フ レ イ ク	1	
	スクレイパー	6	4		礫 [△]	2	
	磨 製 石 斧	1			礫	25	
	く ば り 石	6			石 器 計	31	
	く ば み 石	1			CP-8	土 器	6
	石 皿・台石	5	3		ナ リ 石	3	
	フ レ イ ク	60	3		フ レ イ ク	2	
CH-11	U フ レ イ ク	12	2		U フ レ イ ク	2	
	R フ レ イ ク	2			礫	2	
	コ ア	4	1		石 器 計	9	
	礫 [△]	23	1		CP-10	土 器	26
	礫	243	13		フ レ イ ク	2	
	石 器 計	365	27		U フ レ イ ク		1
	土 器	226	29		礫 [△]	2	
	スクレイパー	7			礫	13	
	ナ リ 石	1			石 器 計	17	1
	た た き 石		2		CP-11	土 器	52
CH-12	フ レ イ ク	43	1		スクレイパー	1	
	U フ レ イ ク	5	1		フ レ イ ク	4	
	礫 [△]	5			コ ア	2	
	礫	54			礫	7	
	石 器 計	115	4		石 器 計	14	
	土 器	68			土 器	10	
	スクレイパー	1			フ レ イ ク	1	
	フ レ イ ク	10	1		コ ア	1	
	U フ レ イ ク	1	1		礫	2	
	礫 [△]	1			石 器 計	4	
CH-13	礫	1			CP-13	土 器	56
	石 器 計	14	2		石 器 計	1	
	土 器	17	15		フ レ イ ク	7	
	スクレイパー	3			礫	6	
	た た き 石	2			石 器 計	14	
	フ レ イ ク	9					

表Ⅷ-4-(3)

遺構番号	名 称	数 量		遺構番号	名 称	数 量	
		覆 土	床 面			覆 土	床 面
CP-14	土 器	11		CSP-57	土 器	3	
	ナ リ 石		1	CSP-59	土 器	1	
	フ レ イ ク	4			石 皿・台 石	1	
	コ 礎	1			土 器	1	
	石 器 計	9	2	CSP-60	フ レ イ ク	1	
CP-16	土 器	6			礎	1	
	フ レ イ ク	1			石 器 計	2	
	礎	4		CSP-61	土 器	2	
	石 器 計	5			フ レ イ ク	1	
CSP-1	礎	2		CSP-63	土 器	1	
CSP-9	土 器	1		CSP-64	フ レ イ ク	13	
	フ レ イ ク	2		CSP-65	土 器	3	
	礎	3			礎	1	
	石 器 計	5			土 器	1	
CSP-13	土 器	1		CSP-67	土 器	1	
	礎	1		CSP-69	土 器	1	
CSP-17	土 器	1			フ レ イ ク	1	
CSP-22	磨 製 石 斧	1			礎	2	
					石 器 計	3	
CSP-25	土 器	2		CSP-72	土 器	1	
	フ レ イ ク	1		CSP-74	石 皿・台 石	1	
CSP-26	土 器	2			フ レ イ ク	1	
	スクレイパー	1		CSP-76	土 器	7	
	フ レ イ ク	1			土 器	2	
	石 器 計	2		CSP-78	土 器	2	
CSP-32	土 器	5			礎	2	
	フ レ イ ク	1		CSP-79	土 器	2	
	礎	2		CSP-10	土 器	5	
	石 器 計	3			土 器	1	
CSP-42	土 器	12		CSP-101	礎	1	
CSP-53	土 器	2					
	礎	1			合 計	14,662	569
CSP-55	土 器	2					
	礎	3					

遺構出土掲載石器等一覧表

表Ⅷ-5-(1)

遺 構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材	遺 構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材
CH-1	7-1	石 鉄	覆土	1.3	Sh	CH-2	13-2	石 鉄	Ⅱb	0.5	Sh
	-2	*	*	1.6	*		-3	*	I	1.1	*
	-3	ポイント	*	5.4	*		-4	*	Ⅱ1	0.7	Ob
	-4	つまみ付 ナイフ	Ⅱ14	15.2	*		-5	*	覆土	2.7	Sh
	-5	*	覆土	4.1	*		-6	*	I	3.1	*
	-6	スクレイパー	*	27.3	*		-7	*	覆土	3.1	*
	-7	*	*	82.0	*		-8	ポイント	*	5.3	*
	-8	磨製石斧	Ⅱ14	110.5	Gr. Mud.		-9	ドリル	*	6.5	*
	-9	台 石	覆土	1,140	Sa		-10	*	*	5.7	*
CH-2	13-1	石 鉄	I	0.7	Ob		-11	スクレイパー	*	12.3	*

表Ⅶ-5-(2)

遺構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材	遺構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材
CH-2	13-12	スクレイパー	Ⅲ b	65.4	Sh	CH-5	25-7	スクレイパー	覆1	34.3	Sh
	-13	＊	床	92.4	＊		-8	コ ア	＊	160.4	＊
	-14	＊	＊	62.6	＊		-9	＊	覆3	41.5	＊
	-15	＊	＊	79.1	＊		-10	磨製石斧	覆土	99.8	Schi
	14-16	＊	Ⅲ a	60.6	＊		-11	＊	＊	110.1	Gr. Mud
	-17	＊	覆10	36.2	＊		-12	＊	＊	49.4	＊
	-18	コ ア	床	138.8	＊		26-13	ナリ石	覆1	800	And
	-19	磨製石斧	覆土	47.4	Gr. Mud		-14	＊	覆10	830	＊
	-20	＊	＊	54.3	＊		-15	＊	＊	540.2	Sa
	-21	＊	床	8.3	Mud		-16	＊	覆1	246.1	And
	-22	ナリ石	覆10	870	And		-17	たたき石	覆10	332.6	Sa
	-23	たたき石	床	121.1	Gr. Mud		-18	＊	覆1	285.4	＊
	-24	＊	＊	211.7	Sa		-19	くばみ石	＊	214.7	Tu
	-25	台 石	＊	1,080	And		-20	二次加工ある礫	＊	42.6	Mud
	-26	石 皿	＊	8,700	＊		-21	砥 石	覆3	384.4	Tu. Sa
	-27	土 製品	覆土	14.3	—		-22	石 皿	覆土	1,200	And
CH-3	16-1	石 鍋	覆土	0.6	Sh	CH-6	29-1	石 鍋	覆土	1.8	Sh
	-2	＊	Ⅲ b	2.1	＊		-2	ドリル	＊	1.7	＊
	-3	＊	覆土	1.3	＊		-3	ポイント	＊	17.0	＊
	-4	磨製石斧	＊	79.1	Gr. Mud		-4	つまみ付ナイフ	＊	17.4	＊
	-5	たたき石	＊	119.9	Sh		-5	＊	覆4	138.6	＊
CH-4	18-1	スクレイパー	床	37.7	Sh		-6	スクレイパー	覆土	24.3	＊
	-2	Uフレイク	＊	4.8	＊		-7	＊	＊	16.8	＊
	-3	コ ア	柱穴15	68.3	＊		-8	磨製石斧	覆4	201.6	Sa
	-4	＊	柱穴20	411.4	＊		-9	＊	覆土	128.4	＊
	-5	磨製石斧	覆土	55.6	Gr. Mud		30-10	ナリ石	覆3	469.2	And
	-6	ナリ石	炉	400.6	And		-11	＊	覆土	650	＊
	-7	＊	＊	910	＊		-12	＊	覆3	274.6	＊
	-8	たたき石	柱穴6	320.2	＊		-13	＊	＊	559.0	Gn
	-9	＊	覆土	365.4	Che		-14	石 皿	＊	244.3	Tu
	-10	＊	炉	284.2	＊		-15	石 製品	覆土	55.3	Tu. Sa
	-11	くばみ石	＊	840	Tu		-16	有 孔 石	＊	174.7	Sh
CH-5	25-1	石 鍋	覆土	1.5	Aga	CH-7	33-1	石 鍋	覆土	1.2	Sh
	-2	＊	覆10	2.8	Sh		-2	模形石器	＊	19.8	＊
	-3	ポイント	覆1	10.0	＊		-3	ナリ石	＊	379.0	And
	-4	つまみ付ナイフ	覆土	7.0	＊		-4	たたき石	＊	288.6	Mud
	-5	スクレイパー	＊	5.4	＊		-5	＊	＊	581.8	Sa
	-6	＊	＊	19.2	＊		-6	石 籠	＊	27.9	Tu. Sa

表Ⅷ-5-(3)

遺構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材	遺構	図-番号	種 別	層	重 量	石 材
CH-8	34-1	ポイント	覆土	9.2	Sh	CH-11	42-4	ナリ石	柱穴3	302.4	And
	-2	スクレイパー	*	22.2	*		-5	たたき石	炉	204.1	Sh
	-3	*	*	71.6	*	CH-12	44-1	スクレイパー	覆土	84.3	Sh
CH-9	35-1	つまみ付ナイフ	覆土	18.1	Sh		-2	Uフレイク	床	27.2	*
	-2	ナリ石	*	60.5	And	CH-13	46-1	スクレイパー	覆土	27.5	Sh
	-3	くばみ石	*	264.4	*		-2	*	*	62.3	*
CH-10	39-1	スクレイパー	床	34.5	Sh		-3	*	*	9.6	*
	-2	*	*	13.8	*		-4	土製品	床	14.1	-
	-3	*	*	18.0	*	CTP-1	47-15	Uフレイク	覆土	10.7	Sh
	-4	*	*	49.6	*		-16	*	*	16.5	*
	-5	コ ア	*	477.4	*		-17	たたき石	*	339.6	And
	40-6	石皿・台石	炉	679	Sa	CP-8	49-5	ナリ石	覆土	589.6	And
	-7	*	*	6,200	And		-6	*	*	458.4	*
	-8	*	*	10,000	*	CP-11	49-10	コ ア	覆土	41.6	Sh
CH-11	42-1	スクレイパー	柱穴	68.7	Sh	CP-13	50-9	石 鉄	覆土	2.0	Sh
	-2	*	*	44.6	Sa	CP-14	50-4	ナリ石	底	587.6	And
	-3	*	覆土	13.1	Sh		-5	コ ア	覆土	24.2	Sh

土器集中Ⅰ 掲載土器一覧表

表Ⅷ-6

図-番号	分類	層	図-番号	分類	層	図-番号	分類	層	図-番号	分類	層
53-1	ⅢA	Ⅲd	53-4a	ⅡB	Ⅲd	54-7	ⅡB	Ⅲd	55-11	ⅢA	Ⅲd
2a	*	*	-4b	*	*	-8	*	*	-12	ⅡB	*
-2b	*	*	54-5	*	*	-9	*	*	-13	*	*
-3	*	*	-6	*	*	55-10	*	*	-14	*	*

土器集中Ⅱ, J-62グリット掲載土器一覧表

表Ⅷ-7-(1)

図-番号	分類	層	図-番号	分類	層	図-番号	分類	層	図-番号	分類	層
57-1	ⅢB ₁	Ⅲb	59-21	ⅣA ₂	Ⅲc	60-41	ⅣA ₂	I・攪乱	61-61	ⅣA ₂	Ⅲa
-2	*	*	-22	*	*	-42	*	*	-62	*	*
-3	ⅣA ₂	*	-23	ⅢA	*	-43	*	攪乱	-63	*	*
-4	*	*	-24	ⅣA ₂	*	-44	*	*	-64	*	*
-5	*	*	-25	*	*	-45	*	*	-65	*	*
-6	*	*	-26	*	*	-46	*	*	-66	*	*
-7	*	*	-27	ⅢA	*	-47	*	*	-67	*	*
-8	*	*	-28	ⅣA ₂	*	-48	*	*	-68	*	Ⅲb
-9	*	*	-29	*	Ⅲd	-49	ⅢB	I・攪乱	-69	*	*
-10	*	*	-30	*	*	-50	*	攪乱	-70	*	*
-11	ⅢA	*	-31	*	*	-51	ⅢB	I・攪乱	-71	*	Ⅲa
-12	ⅣA ₂	*	-32	*	Ⅲb・c・d	61-52	ⅡB ₂	Ⅲb	-72	*	Ⅲb
58-13	ⅢB ₂	Ⅲc	-33	ⅢA	Ⅲd	-53	ⅢA	*	-73	*	Ⅲa
-14	ⅣA ₂	*	-34	*	*	-54	*	*	-74	*	Ⅲb
-15	*	Ⅲb・c・d・攪乱	60-35	ⅢA	I・攪乱	-55	*	Ⅲa	-75	*	Ⅲa
-16	*	Ⅲb・c	-36	*	攪乱	-56	ⅢB ₁	*	-76	*	Ⅲb
-17	*	Ⅲc	-37	ⅢB ₁	*	-57	ⅢB ₂	*	-77	*	Ⅲa
-18	*	Ⅲb・c	-38	ⅢB ₂	I・攪乱	-58	ⅢC	*	62-78	*	*
-19	*	Ⅲc	-39	*	攪乱	-59	*	*	-79	*	Ⅲb
-20	*	*	-40	ⅣA ₂	I・攪乱	-60	ⅣA ₂	*	-80	*	*

表Ⅶ-7-(2)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
62-81	ⅣA ₂	Ⅲ b	63-105	Ⅲ A	Ⅲ c	64-129	Ⅳ A ₂	Ⅲ c	65-153	Ⅲ B ₂	Ⅲ d
-82	◇	◇	-106	◇	◇	-130	◇	◇	-154	◇	◇
-83	◇	◇	-107	◇	◇	-131	◇	◇	-155	◇	◇
-84	◇	◇	-108	◇	◇	-132	◇	◇	-156	◇	◇
-85	◇	◇	-109	◇	◇	-133	◇	◇	-157	◇	◇
-86	◇	◇	-110	◇	◇	-134	◇	◇	-158	Ⅳ A ₂	◇
-87	◇	Ⅲ a	-111	◇	◇	-135	◇	◇	-159	◇	◇
-88	◇	Ⅲ b	-112	◇	◇	-136	◇	◇	-160	◇	◇
-89	◇	◇	-113	◇	Ⅲ b・c	-137	◇	◇	-161	◇	◇
-90	◇	◇	-114	◇	Ⅲ c	-138	◇	◇	-162	◇	◇
-91	◇	◇	-115	◇	◇	-139	◇	◇	-163	◇	◇
-92	◇	◇	-116	Ⅲ C	◇	-140	◇	◇	-164	◇	◇
-93	◇	◇	-117	Ⅳ A ₂	◇	-141	◇	◇	-165	◇	◇
-94	◇	◇	-118	◇	◇	-142	◇	◇	-166	◇	◇
-95	◇	◇	-119	◇	◇	-143	◇	◇	-167	◇	◇
-96	◇	Ⅲ a	-120	◇	◇	-144	◇	◇	-168	◇	◇
-97	◇	Ⅲ b	-121	◇	◇	-145	◇	◇	-169	◇	◇
-98	◇	Ⅲ a	-122	◇	◇	65-146	Ⅲ A	Ⅲ d	-170	◇	◇
-99	◇	◇	-123	◇	◇	-147	◇	Ⅲ c	-171	◇	◇
-100	◇	◇	-124	◇	◇	-148	◇	Ⅲ d	-172	◇	◇
-101	◇	◇	-125	◇	◇	-149	◇	Ⅲ c	-173	◇	◇
63-102	Ⅲ A	Ⅲ c	-126	◇	◇	-150	◇	Ⅲ d			
-103	◇	◇	64-127	◇	◇	-151	Ⅲ B ₁	◇			
-104	◇	◇	-128	◇	◇	-152	Ⅲ B ₂	◇			

土器集中Ⅱ、J-63グリッド掲載土器一覧表

表Ⅶ-8-(1)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
66-1	Ⅳ B	I・攪乱	70-33	Ⅳ A ₂	Ⅲ c	73-65	Ⅲ B ₂	Ⅲ a	74-97	Ⅳ A ₂	Ⅲ b
-2	Ⅳ A ₂	Ⅲ b	-34	Ⅲ	◇	-66	◇	Ⅲ b	-98	◇	◇
-3	◇	◇	-35	Ⅲ	◇	-67	Ⅳ A ₂	◇	-99	◇	Ⅲ a
-4	◇	◇	-36	Ⅲ	◇	-68	◇	◇	-100	◇	Ⅲ b
-5	◇	◇	-37	Ⅲ	◇	-69	◇	◇	-101	◇	◇
-6	◇	◇	-38	Ⅲ B ₁	◇	-70	◇	◇	-102	◇	◇
67-7	◇	◇	71-39	Ⅲ A	Ⅲ d	-71	◇	◇	-103	◇	◇
-8	◇	◇	-40	Ⅳ A ₂	◇	-72	◇	◇	-104	◇	◇
-9	◇	◇	-41	Ⅲ	Ⅲ b・c・d	-73	◇	◇	-105	◇	◇
-10	◇	◇	-42	Ⅲ	Ⅲ b・d	-74	◇	◇	-106	◇	◇
-11	◇	◇	-43	Ⅲ	Ⅲ d	-75	◇	Ⅲ a	75-107	◇	◇
-12	◇	◇	-44	Ⅲ	◇	-76	◇	Ⅲ b	-108	◇	◇
68-13	◇	◇	72-45	Ⅲ	I・攪乱	-77	◇	◇	-109	◇	◇
-14	◇	◇	-46	Ⅲ	I	-78	◇	◇	-110	◇	◇
-15	◇	◇	-47	Ⅳ B	◇	-79	◇	Ⅲ a	-111	◇	◇
-16	◇	◇	-48	Ⅲ	I・攪乱	-80	◇	Ⅲ b	-112	◇	◇
-17	◇	◇	-49	Ⅳ B	◇	-81	◇	Ⅲ a	-113	◇	Ⅲ a
-18	◇	◇	-50	Ⅲ	◇	74-82	◇	Ⅲ b	-114	◇	◇
-19	◇	◇	-51	Ⅲ	◇	-83	◇	Ⅲ a	-115	◇	Ⅲ b
-20	◇	◇	-52	Ⅲ	Ⅲ a	-84	◇	Ⅲ b	-116	◇	◇
69-21	◇	Ⅲ b・Ⅲ c	-53	Ⅲ	I・攪乱	-85	◇	◇	-117	◇	◇
-22	◇	◇	73-54	Ⅲ B ₂	Ⅲ b	-86	◇	◇	-118	◇	Ⅲ a
-23	◇	Ⅲ b	-55	Ⅲ A	◇	-87	◇	Ⅲ a	-119	◇	◇
-24	◇	◇	-56	Ⅲ	◇	-88	◇	Ⅲ b	-120	◇	Ⅲ b
-25	◇	◇	-57	Ⅲ	◇	-89	◇	Ⅲ a	-121	◇	Ⅲ a
-26	◇	◇	-58	Ⅲ	◇	-90	◇	Ⅲ b	-122	◇	Ⅲ b
-27	◇	Ⅲ b・Ⅲ c	-59	Ⅲ B ₂	Ⅲ a	-91	◇	◇	-123	◇	◇
-28	◇	Ⅲ b	-60	Ⅲ	Ⅲ b	-92	◇	◇	-124	◇	Ⅲ a
-29	◇	◇	-61	Ⅲ	◇	-93	◇	◇	-125	◇	Ⅲ b
-30	◇	◇	-62	Ⅲ	◇	-94	◇	Ⅲ a	-126	◇	◇
70-31	◇	Ⅲ c	-63	Ⅲ	◇	-95	◇	Ⅲ b	-127	◇	Ⅲ a
-32	◇	◇	-64	Ⅲ	◇	-96	◇	◇	-128	◇	Ⅲ b

表Ⅷ-8-(2)

図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層	図一番号	分類	層
75-129	ⅤA ₂	Ⅲ b	76-155	ⅣA ₂	Ⅲ c	77-181	ⅢB ₂	Ⅲ d	78-207	ⅣA ₂	Ⅲ d
-130	◆	Ⅲ a	-156	◆	◆	-182	◆	◆	-208	◆	◆
-131	◆	Ⅲ b	-157	◆	◆	-183	◆	◆	-209	◆	◆
-132	◆	Ⅲ a	-158	◆	◆	-184	◆	◆	-210	◆	◆
-133	ⅤC	Ⅲ b	-159	◆	◆	-185	◆	◆	-211	◆	◆
76-134	ⅢB ₂	Ⅲ c	-160	◆	◆	-186	◆	◆	-212	◆	◆
-135	ⅢA	◆	-161	◆	◆	-187	◆	◆	-213	◆	◆
-136	◆	◆	-162	◆	◆	-188	◆	◆	-214	◆	◆
-137	ⅢB ₁	◆	-163	◆	◆	-189	◆	◆	-215	◆	◆
-138	ⅢB ₂	◆	-164	◆	◆	-190	◆	◆	-216	◆	◆
-139	◆	◆	-165	◆	◆	-191	◆	◆	-217	◆	◆
-140	◆	◆	-166	◆	◆	-192	◆	◆	-218	◆	◆
-141	◆	◆	-167	ⅣB	◆	-193	◆	◆	-219	◆	◆
-142	◆	◆	-168	◆	Ⅲ d	-194	◆	◆	-220	◆	◆
-143	◆	◆	77-169	ⅢB ₂	◆	-195	◆	◆	-221	◆	◆
-144	◆	◆	-170	◆	◆	-196	◆	◆	-222	◆	◆
-145	◆	◆	-171	ⅢA	◆	-197	◆	◆	-223	◆	◆
-146	◆	◆	-172	◆	◆	-198	◆	◆	-224	◆	◆
-147	ⅣA ₂	◆	-173	◆	◆	-199	◆	◆	-225	◆	◆
-148	◆	◆	-174	ⅢB ₁	◆	-200	◆	◆	-226	◆	◆
-149	◆	◆	-175	◆	◆	-201	◆	◆	-227	◆	◆
-150	◆	◆	-176	◆	◆	-202	◆	◆	-228	◆	◆
-151	◆	◆	-177	ⅢB ₂	◆	-203	◆	◆	-229	◆	◆
-152	◆	◆	-178	◆	◆	78-204	◆	◆	-230	◆	◆
-153	◆	◆	-179	◆	◆	-205	◆	◆	-231	◆	◆
-154	◆	◆	-180	◆	◆	-206	◆	◆			

土器集中Ⅲ掲載土器一覧表

表Ⅷ-9

図番号	分類	層	図番号	分類	層	図番号	分類	層	図番号	分類	層
79-1	ⅤB	Ⅲ a	80-16	ⅤB	Ⅲ b	81-31	ⅤB	I・攪乱	81-46	ⅤB	Ⅲ a
-2	◆	Ⅲ b	-17	◆	Ⅲ a	-32	◆	Ⅲ b	-47	◆	I・攪乱
-3	◆	◆	-18	◆	Ⅲ b	-33	◆	Ⅲ a	-48	◆	Ⅲ b
-4	◆	Ⅲ a	-19	◆	◆	-34	◆	I・攪乱	-49	◆	I
-5	◆	◆	-20	◆	Ⅲ a	-35	◆	I	-50	◆	Ⅲ b
-6	◆	◆	-21	◆	◆	-36	◆	Ⅲ b	-51	◆	◆
-7	◆	I・Ⅲ b	-22	◆	◆	-37	◆	I・攪乱	-52	◆	◆
-8	◆	Ⅲ a	-23	◆	Ⅲ b	-38	◆	攪乱	-53	◆	◆
-9	◆	◆	81-24	◆	攪乱	-39	◆	Ⅲ b	-54	◆	攪乱
-10	◆	I・Ⅲ b	-25	◆	Ⅲ a	-40	◆	◆	-55	◆	Ⅲ b
-11	◆	Ⅲ b	-26	◆	Ⅲ b	-41	ⅤC	◆	-56	◆	◆
-12	◆	Ⅲ	-27	◆	I・攪乱	-42	◆	Ⅲ a	-57	◆	攪乱
-13	◆	Ⅲ b	-28	◆	◆	-43	◆	◆	-58	◆	◆
-14	◆	◆	-29	◆	Ⅲ b	-44	ⅤB	I	-59	◆	◆
80-15	◆	◆	-30	◆	Ⅲ a	-45	◆	Ⅲ a	-60	◆	Ⅲ c

沢部分包含層出土掲載土器一覧表

表Ⅷ-10

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
83-1 a	ⅢB ₂	L-65	Ⅲ	83-3 b	ⅢA	K-66	Ⅲ	84-6	ⅣA ₂	M-66	Ⅲ
-1 b	◆	◆	◆	-3 c	◆	◆	◆	-7 a	ⅤB	L-66	◆
-2	ⅢA	K-66	◆	-4	◆	K-66・67	◆	-7 b	◆	◆	◆
-3 a	◆	◆	◆	84-5	◆	K-66	◆				

包含層出土土器載土器一覧表

表Ⅷ-11

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
85-1	Ⅱ B ₂	L-66	Ⅲ d	91-45	Ⅳ A ₂	I-65	Ⅲ b	97-89	Ⅳ B	O-60	Ⅲ a
-2	*	K-66	*	-46	*	K-67	*	-90	*	I-64	Ⅲ c
-3	Ⅱ B ₂	L-66	*	-47	*	J-64	Ⅲ b・d	-91	*	M-68	Ⅲ a
86-4	Ⅱ B ₂	K-66	Ⅲ a・b	-48	*	O-63	Ⅲ d	-92	*	K-62	Ⅲ b
-5	*	*	Ⅲ b	-49	*	H・I-66	Ⅲ d	-93	*	I-64	Ⅲ c
-6	*	*	*	92-50	*	H-66	*	-94	*	M-68	Ⅲ a
-7	Ⅲ A	L-66	Ⅲ a	-51	*	J-64	Ⅲ b	98-95	*	K-62	Ⅲ b
-8	*	K-67	Ⅲ a	-52	*	I-66	Ⅲ d	-96	Ⅳ C	O-63	Ⅲ a・b
-9	*	M-66	Ⅲ b	93-53	*	L-67	I	-97	*	M-60	Ⅲ a
87-10	*	M-64	Ⅲ a	-54	*	N-68	Ⅲ a	-98	*	N-62	*
-11	*	K-67	Ⅲ b	-55	*	N-65	I	-99	*	N-69	Ⅲ b
-12	*	*	Ⅲ a	-56	*	L-69	Ⅲ b	-100	*	N-60	I
-13	*	*	Ⅲ a・b	-57	*	N-66	*	-101	*	J-64	Ⅲ a
-14	*	N-68	*	-58	*	O-68	*	-102	*	N-61	Ⅲ b
-15	*	K-67	Ⅲ a	94-59	*	N-68	不明	-103	*	K-67	Ⅲ a
-16	*	J・K-66	I・攪乱・Ⅲ a	-60	*	M-66	Ⅲ b	-104	*	L-65	Ⅲ b
-17	Ⅲ B ₁	J-67	Ⅲ d	-61	*	O-68	*	-105	*	O-60	I
-18	*	L-66	Ⅲ b	-62	*	N-68	*	99-106	Ⅳ B	M-64	Ⅲ a
-19	*	L-67	V	-63	*	O-69	I・Ⅲ a	-107	*	*	*
88-20	Ⅲ B ₂	O-65	Ⅲ b	95-64	*	L-69	Ⅲ b	-108	*	L-66	*
-21	*	L-69	*	-65	*	I-66	Ⅲ d	-109	*	M-63	Ⅲ d
-22	*	O-68	*	-66	*	L-65	Ⅲ a	-110	*	M-64	Ⅲ a
-23	*	K-67	Ⅲ d	-67	*	I-65	Ⅲ b	-111	*	N-64	Ⅲ b
-24	*	*	Ⅲ a	-68	*	K-66	Ⅲ d	-112	*	M-63	Ⅲ a・攪乱
-25	Ⅲ C	*	Ⅲ b	-69	*	N-68	Ⅲ d	-113	*	L-68	Ⅲ b
-26	Ⅳ A ₂	不明	不明	-70	*	M-67	Ⅲ b	-114	*	L-66	Ⅲ a
-27	Ⅳ A ₂	O-65	Ⅲ b	-71	*	L-65	Ⅲ d	-115	*	N-64	Ⅲ b
89-28	Ⅳ A ₂	M-66・67	*	-72	*	N-69	I・Ⅲ b	-116	*	O-64	*
-29	*	I-65	*	96-73	*	K-66	Ⅲ a	100-117	*	J-67	*
-30	*	N-65	Ⅲ a	-74	*	M-66	Ⅲ b	-118	*	N-65	*
-31	*	J-61	攪乱	-75	*	K-66	I	-119	*	L-65	Ⅲ a
-32	*	L-65	I	-76	*	L-65	Ⅲ a	-120	*	M-65	Ⅲ
-33	*	L-66・67	Ⅲ a	-77	*	I-65	Ⅲ d	-121	*	O-63	Ⅲ a
-34	*	J-64	Ⅲ c・d	-78	*	L-69	Ⅲ a	-122	*	O-68	*
-35	*	J-61	Ⅲ b	-79	*	O-69	*	-123	*	L-66	*
-36	*	K-62	Ⅲ d	-80	*	O-62	I	-124	*	N-62	I
90-37	*	H-66	*	-81	*	N-60	Ⅲ b	-125	*	J-67	Ⅲ d
-38	*	M-67	Ⅲ a	-82	*	L-65	I	-126	*	J-66	I・攪乱
-39	*	O-68	*	-83	*	N-68	Ⅲ a	-127	*	J-64	Ⅲ d
-40	*	K-61	V	-84	*	M-65	Ⅲ b	-128	*	N-64	I
-41	*	M-66	Ⅲ b	-85	*	I-63	Ⅲ c	-129	*	J-64	Ⅲ c
-42	*	I-65	*	-86	*	O-63	Ⅲ b	-130	*	M-65	Ⅲ
-43	*	O-63	不明	-87	*	I-65	Ⅲ d	-131	*	M-64	*
91-44	*	K-65 L-64・65	Ⅲ d	-88	Ⅳ B	J-64	Ⅲ e				

包含層出土土器載土器 (拓本) 一覧表

表Ⅷ-12-(1)

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
101-1	I B	I-65	Ⅲ d	101-13	Ⅱ B ₂	L-65	Ⅲ b	102-25	Ⅲ A	K-67	Ⅲ d
-2	Ⅱ A	J-61	Ⅲ a	-14	*	*	Ⅲ d	-26	*	K-66	Ⅲ a
-3	*	N-67	I	-15	Ⅱ B ₂	*	Ⅲ a	-27	*	K-67	*
-4	*	沢	I・攪乱	-16	*	*	*	-28	*	O-62	*
-5	*	J-61	Ⅲ a	-17	*	K-66	Ⅲ d	-29	*	L-65	*
-6	Ⅱ B ₁	K-66	Ⅲ d	-18	*	沢	*	-30	*	L-68	Ⅲ b
-7	*	沢	*	-19	*	N-65	I	-31	*	*	*
-8	*	L-65	Ⅲ b	-20	*	I-65	Ⅲ d	-32	*	L-65	*
-9	*	沢	Ⅲ d	-21	*	L-68	Ⅲ b	-33	*	I-64	*
-10	*	K-66	*	102-22	Ⅲ A	O-68	I	-34	*	L-65	Ⅲ a
-11	*	L-65	*	-23	*	L-67	Ⅲ b	-35	*	L-68	Ⅲ b
-12	*	*	*	-24	*	L-65	Ⅲ a	-36	*	K-66	Ⅲ a

表Ⅷ-12-(2)

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
—37	ⅢA	M-65	Ⅲb	105—97	ⅢB ₁	L-68	Ⅲb	108—157	ⅣA ₁	M-67	Ⅲa
—38	*	O-68	Ⅲa	—98	*	N-68	*	—158	*	J-67	Ⅲd
—39	*	K-66	*	—99	*	L-68	Ⅲa	—159	*	*	*
103—40	*	I-64	Ⅲb	106—100	ⅢB ₂	N-67	I	—160	*	O-63	Ⅲ
—41	*	K-66	Ⅲd	—101	*	K-67	Ⅲb	—161	*	M-63	Ⅲd
—42	*	L-63	Ⅲb	—102	*	K-62	*	—162	ⅣA ₂	I-66	*
—43	*	K-66	Ⅲa	—103	*	J-67	Ⅲd	—163	*	N-65	I
—44	*	J-69	I	—104	*	J-64	Ⅲb	—164	*	I-63	Ⅲd
—45	*	L-68	Ⅲb	—105	*	M-67	*	—165	*	K-66	*
—46	*	L-65	Ⅲa	—106	*	K-67	*	—166	*	I-65	Ⅲb
—47	*	M-64	*	—107	*	M-60	*	—167	*	J-64	*
—48	*	M-67	Ⅲb	—108	*	J-64	*	—168	*	K-65	I
—49	*	O-69	Ⅲa	—109	*	O-65	Ⅲa	—169	*	J-64	Ⅲd
—50	*	L-66	*	—110	*	M-65	Ⅲb	—170	*	K-62	Ⅲb
—51	*	L-67	Ⅲb	—111	*	K-66	Ⅲ	109—171	*	J-64	*
—52	*	K-67	Ⅲd	—112	*	K-68	Ⅲb	—172	*	*	Ⅲd
104—53	*	J-67	*	—113	*	L-67	V	—173	*	I-63	*
—54	*	K-67	Ⅲb	—114	*	I-64	Ⅲd	—174	*	I-65	*
—55	*	*	*	—115	*	L-65	Ⅲa	—175	*	K-66	I
—56	*	K-66	Ⅲa	—116	*	J-64	Ⅲb	—176	*	M-67	Ⅲb
—57	*	K-67	Ⅲd	—117	*	K-66	*	—177	*	J-64	Ⅲd
—58	*	L-67	Ⅲa	—118	*	O-65	*	—178	*	O-63	Ⅲa
—59	*	*	Ⅲb	107—119	*	J-67	Ⅲd	—179	*	K-62	Ⅲd
—60	*	N-66	Ⅲa	—120	*	L-67	Ⅲb	—180	*	I-65	*
—61	*	L-67	Ⅲb	—121	*	M-66	*	—181	*	I-66	*
—62	*	M-66	Ⅲa	—122	*	M-65	*	—182	*	I-65	*
—63	*	J-67	Ⅲb	—123	*	K-66	I	—183	*	I-66	*
—64	*	*	Ⅲd	—124	*	J-67	Ⅲd	—184	*	*	*
—65	*	K-67	Ⅲb	—125	*	L-64	Ⅲb	—185	*	I-65	Ⅲb
—66	*	N-66	*	—126	*	J-67	Ⅲd	—186	*	*	Ⅲd
—67	*	沢	Ⅲd	—127	*	L-65	Ⅲd	—187	*	I-63	Ⅲc
—68	*	L-65	*	—128	*	K-67	Ⅲb	—188	*	I-66	Ⅲd
—69	*	K-62	Ⅲb	—129	*	I-63	Ⅲc	—189	*	L-65	Ⅲa
—70	*	*	*	—130	*	O-63	Ⅲb	—190	*	*	*
—71	*	*	Ⅲa	—131	*	J-66	Ⅲd	—191	*	J-65	Ⅲd
—72	*	L-66	*	—132	*	M-66	Ⅲb	—192	*	L-65	Ⅲa
—73	*	O-63	I	—133	*	J-61	捜 乱	—193	*	N-65	I
—74	*	L-66	Ⅲa	—134	*	O-63	Ⅲ	—194	*	L-64	Ⅲd
—75	*	M-66	*	—135	*	*	Ⅲa	—195	*	I-66	Ⅲd
—76	*	L-65	*	—136	*	L-65	*	—196	*	J-65	*
105—77	ⅢB ₁	N-63	*	—137	*	O-69	I	—197	*	K-61	捜 乱
—78	*	J-69	Ⅲd	—138	*	M-67	Ⅲb	—198	*	I-63	Ⅲd
—79	*	N-63	I	—139	*	O-64	*	110—199	*	I-66	*
—80	*	N-68	Ⅲb	—140	*	L-66	*	—200	*	L-65	*
—81	*	K-66	*	—141	*	K-66	I	—201	*	H-66	*
—82	*	M-65	*	—142	*	O-69	Ⅲa	—202	*	I-66	I・捜乱
—83	*	I-66	Ⅲd	—143	*	M-66	Ⅲb	—203	*	L-68	Ⅲb
—84	*	J-67	捜 乱	108—144	ⅣA ₁	J-64	Ⅲc	—204	*	K-66	I
—85	*	L-67	Ⅲa	—145	*	K-67	Ⅲa	—205	*	O-67	*
—86	*	J-66	Ⅲb	—146	*	N-69	*	—206	*	H-66	Ⅲd
—87	*	N-69	*	—147	*	K-66	Ⅲb	—207	*	L-65	Ⅲa
—88	*	O-67	Ⅲd	—148	*	*	*	—208	*	I-65	Ⅲb
—89	*	L-68	Ⅲb	—149	*	O-65	Ⅲa	—209	*	*	*
—90	*	J-67	Ⅲd	—150	*	J-67	Ⅲd	—210	*	L-66	Ⅲa
—91	*	*	*	—151	*	K-67	*	—211	*	J-60	I
—92	*	*	*	—152	*	M-67	Ⅲb	—212	*	I-65	Ⅲd
—93	*	*	*	—153	*	L-67	I	—213	*	I-66	Ⅲb
—94	*	L-65	Ⅲa	—154	*	M-67	Ⅲb	—214	*	J-65	Ⅲd
—95	*	K-67	Ⅲb	—155	*	J-67	Ⅲd	—215	*	J-66	*
—96	*	沢	I・捜乱	—156	*	I-64	Ⅲb	—216	*	I-64	Ⅲc

表Ⅶ-12-(3)

図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層	図一番号	分類	出土区	層
110-217	ⅣA ₁	L-67	Ⅲb	113-275	ⅣA ₂	O-69	Ⅲa	116-333	ⅣC	N-62	Ⅲa
111-218	*	J-64	*	-276	*	K-66	I	-334	*	N-61	Ⅲb
-219	*	L-65	Ⅲa	114-277	*	M-65	Ⅲb	-335	*	J-64	*
-220	*	J-64	I・攪乱	-278	*	N-66	I	-336	*	N-60	*
-221	*	K-64	Ⅲa	-279	*	O-60	Ⅲa	-337	VB	M-64	Ⅲa
-222	*	J-64	Ⅲb	-280	*	K-66	Ⅲb	-338	*	N-64	I・攪乱
-223	*	I-66	Ⅲd	-281	*	K-68	Ⅳ	-339	*	J-67	Ⅲa
-224	*	L-65	Ⅲa	-282	*	M-65	Ⅲb	-340	*	M-64	*
-225	*	K-66	I	-283	*	*	*	-341	*	O-64	I
-226	*	J-64	Ⅲc	-284	*	K-67	Ⅲa	-342	*	N-64	I・攪乱
-227	*	*	Ⅲb	-285	*	L-65	I	-343	*	I	I
-228	*	O-63	I・攪乱	-286	*	*	*	-344	*	N-66	*
-229	*	K-62	Ⅲb	-287	*	L-68	Ⅲb	-345	*	N-62	Ⅲa
-230	*	L-65	Ⅲd	-288	*	O-68	Ⅲa	-346	*	M-64	*
-231	*	L-66	*	-289	*	N-66	Ⅲb	-347	*	*	*
-232	*	K-66	I	-290	*	I-60	I	-348	*	*	*
-233	*	L-65	Ⅲb	-291	*	O-69	Ⅲa	-349	*	*	*
-234	*	*	*	-292	*	L-65	*	-350	*	*	*
-235	*	*	Ⅲa	-293	*	L-67	I	-351	*	*	*
-236	*	O-63	*	-294	*	I-65	Ⅲd	-352	*	L-66	*
-237	*	M-63	*	-295	*	J-64	Ⅲc	-353	*	N-64	*
-238	*	M-65	*	-296	*	O-68	Ⅲa	-354	*	M-64	*
-239	*	I-65	Ⅲb	-297	*	N-66	I	-355	*	J-67	Ⅲd
-240	*	K-66	*	-298	*	J-64	Ⅲb	117-356	*	M-64	Ⅲa
-241	*	O-63	Ⅲa	-299	ⅣB	攪乱	Ⅲc	-357	*	N-66	I
112-242	*	M-69	*	115-300	*	J-64	Ⅲc	-358	*	L-65	Ⅲa
-243	*	N-68	Ⅲb	-301	*	M-60	Ⅲa	-359	*	O-62	*
-244	*	*	*	-302	*	J-68	攪乱	-360	*	N-66	I
-245	*	N-67	Ⅲa	-303	*	N-67	Ⅲa	-361	*	N-65	*
-246	*	L-67	I	-304	*	J-64	Ⅲb	-362	*	O-64	Ⅲb
-247	*	K-66	*	-305	*	N-68	Ⅲa	-363	*	O-64	*
-248	*	*	Ⅲd	-306	*	J-64	I・攪乱	-364	*	N-68	*
-249	*	O-69	I	-307	*	N-68	I	-365	*	O-63	I
-250	*	沢	*	-308	*	I-63	Ⅲc	-366	*	L-65	*
-251	*	N-68	Ⅲa	-309	*	沢	攪乱	-367	*	L-66	Ⅲa
-252	*	L-65	*	-310	*	N-67	Ⅲa	-368	*	N-64	I
-253	*	O-66	Ⅲb	-311	*	M-65	Ⅲb	-369	*	M-64	Ⅲa
-254	*	I-66	*	-312	*	L-66	Ⅲa	-370	*	N-62	*
-255	*	沢	I・攪乱	-313	*	沢	攪乱	-371	*	*	*
-256	*	I-65	Ⅲb	-314	*	J-64	Ⅲb	-372	*	*	I
-257	*	L-65	Ⅲa	-315	*	K-66	I	-373	*	N-67	*
-258	*	K-65	*	-316	*	J-64	Ⅲb	-374	*	J-67	Ⅲa
-259	*	O-67	*	-317	*	*	I	-375	*	N-62	*
-260	*	N-67	Ⅲb	-318	*	N-67	Ⅲa	-376	*	N-64	I
113-261	*	O-68	Ⅲa	-319	*	M-66	Ⅲb	-377	*	M-65	Ⅲa
-262	*	J-64	Ⅲb	-320	*	K-61	攪乱	-378	VC	K-68	Ⅲb
-263	*	K-66	I	116-321	*	N-66	I	-379	*	O-64	I
-264	*	N-68	Ⅲb	-322	*	*	*	-380	*	O-65	*
-265	*	*	*	-323	ⅣC	N-62	*	-381	*	L-68	Ⅲb
-266	*	O-68	*	-324	*	L-65	Ⅲa	-382	*	*	*
-267	*	L-66	Ⅲa	-325	*	N-60	I	-383	*	M-63	Ⅲd
-268	*	O-68	*	-326	*	L-66	Ⅲa	-384	*	M-62	Ⅲa
-269	*	*	*	-327	*	N-62	I	-385	*	O-64	*
-270	*	L-69	*	-328	*	L-66	Ⅲa	-386	*	L-65	I
-271	*	N-68	Ⅲb	-329	*	N-67	I	-387	*	L-66	Ⅲa
-272	*	*	I	-330	*	L-69	Ⅲa	-388	*	J-68, L-67	I・Ⅲb
-273	*	K-66	Ⅲa	-331	*	M-60	I	-389	*	K-67	Ⅲb
-274	*	N-67	*	-332	*	L-69	Ⅲa				

表Ⅷ-13-(1)

包層出土地層石層一覽表

番号	層別	出土区	層	重量(g)	石	番号	層別	出土区	層	重量(g)	石	番号	層別	出土区	層	重量(g)	石	番号	層別	出土区	層	重量(g)	石
1	石	J-63	b	0.8	Sh	54	石	O-65	Ⅱa	2.8	Sh	107	香砂	O-68	Ⅱa	10.2	Sh	1	石	O-68	Ⅱa	10.2	Sh
2	石	J-63	a	0.9	Ob	55	石	O-65	Ⅱa	3.2	Sh	108	香砂	O-68	Ⅱa	26.5	Sh	2	石	O-68	Ⅱa	26.5	Sh
3	石	J-63	a	2.3	Ob	56	石	O-65	Ⅱa	3.2	Sh	109	香砂	O-68	Ⅱa	50.3	Sh	3	石	O-68	Ⅱa	50.3	Sh
4	石	J-63	a	0.4	Sh	57	石	O-65	Ⅱa	3.7	Sh	110	香砂	O-68	Ⅱa	56.6	Sh	4	石	O-68	Ⅱa	56.6	Sh
5	石	J-63	a	0.8	Sh	58	石	O-65	Ⅱa	5.4	Sh	111	香砂	O-68	Ⅱa	99.7	Sh	5	石	O-68	Ⅱa	99.7	Sh
6	石	J-63	a	0.7	Sh	59	石	O-65	Ⅱa	0.9	Sh	112	香砂	O-68	Ⅱa	90.0	Sh	6	石	O-68	Ⅱa	90.0	Sh
7	石	J-63	a	0.8	Sh	60	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	113	香砂	O-68	Ⅱa	36.7	Sh	7	石	O-68	Ⅱa	36.7	Sh
8	石	J-63	a	0.7	Sh	61	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	114	香砂	O-68	Ⅱa	2.4	Sh	8	石	O-68	Ⅱa	2.4	Sh
9	石	J-63	a	1.3	Sh	62	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	115	香砂	O-68	Ⅱa	4.5	Sh	9	石	O-68	Ⅱa	4.5	Sh
10	石	J-63	a	0.9	Sh	63	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	116	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	10	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
11	石	J-63	a	1.0	Sh	64	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	117	香砂	O-68	Ⅱa	3.6	Sh	11	石	O-68	Ⅱa	3.6	Sh
12	石	J-63	a	1.0	Sh	65	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	118	香砂	O-68	Ⅱa	11.6	Sh	12	石	O-68	Ⅱa	11.6	Sh
13	石	J-63	a	1.0	Sh	66	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	119	香砂	O-68	Ⅱa	20.1	Sh	13	石	O-68	Ⅱa	20.1	Sh
14	石	J-63	a	1.3	Sh	67	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	120	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	14	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
15	石	J-63	a	1.3	Sh	68	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	121	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	15	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
16	石	J-63	a	1.0	Sh	69	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	122	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	16	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
17	石	J-63	a	1.0	Sh	70	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	123	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	17	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
18	石	J-63	a	1.0	Sh	71	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	124	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	18	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
19	石	J-63	a	1.0	Sh	72	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	125	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	19	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
20	石	J-63	a	1.0	Sh	73	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	126	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	20	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
21	石	J-63	a	1.0	Sh	74	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	127	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	21	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
22	石	J-63	a	1.0	Sh	75	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	128	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	22	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
23	石	J-63	a	1.0	Sh	76	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	129	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	23	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
24	石	J-63	a	1.0	Sh	77	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	130	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	24	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
25	石	J-63	a	1.0	Sh	78	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	131	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	25	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
26	石	J-63	a	1.0	Sh	79	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	132	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	26	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
27	石	J-63	a	1.0	Sh	80	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	133	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	27	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
28	石	J-63	a	1.0	Sh	81	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	134	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	28	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
29	石	J-63	a	1.0	Sh	82	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	135	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	29	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
30	石	J-63	a	1.0	Sh	83	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	136	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	30	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
31	石	J-63	a	1.0	Sh	84	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	137	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	31	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
32	石	J-63	a	1.0	Sh	85	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	138	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	32	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
33	石	J-63	a	1.0	Sh	86	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	139	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	33	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
34	石	J-63	a	1.0	Sh	87	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	140	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	34	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
35	石	J-63	a	1.0	Sh	88	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	141	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	35	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
36	石	J-63	a	1.0	Sh	89	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	142	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	36	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
37	石	J-63	a	1.0	Sh	90	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	143	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	37	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
38	石	J-63	a	1.0	Sh	91	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	144	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	38	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
39	石	J-63	a	1.0	Sh	92	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	145	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	39	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
40	石	J-63	a	1.0	Sh	93	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	146	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	40	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
41	石	J-63	a	1.0	Sh	94	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	147	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	41	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
42	石	J-63	a	1.0	Sh	95	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	148	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	42	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
43	石	J-63	a	1.0	Sh	96	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	149	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	43	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
44	石	J-63	a	1.0	Sh	97	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	150	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	44	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
45	石	J-63	a	1.0	Sh	98	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	151	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	45	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
46	石	J-63	a	1.0	Sh	99	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	152	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	46	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
47	石	J-63	a	1.0	Sh	100	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	153	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	47	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
48	石	J-63	a	1.0	Sh	101	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	154	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	48	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
49	石	J-63	a	1.0	Sh	102	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	155	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	49	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
50	石	J-63	a	1.0	Sh	103	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	156	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	50	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
51	石	J-63	a	1.0	Sh	104	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	157	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	51	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
52	石	J-63	a	1.0	Sh	105	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	158	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	52	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh
53	石	J-63	a	1.0	Sh	106	石	O-65	Ⅱa	1.3	Sh	159	香砂	O-68	Ⅱa	15.9	Sh	53	石	O-68	Ⅱa	15.9	Sh

表Ⅷ-13-2

番号	種別	出土区	層	重量(g)	石	素材	形状	種別	出土区	層	重量(g)	石	素材	形状	種別	出土区	層	重量(g)	石	素材
160	スクリューバー	N-50	a	5.7	Sh		213	スクリューバー	O-66	a	31.7	Sh	266	磨製石斧	N-68	a	45.7	Gr. Mud		
161	*	K-52	b	25.9	*		214	*	O-66	b	35.7	*	267	*	N-66	b	186.9	*		
162	*	O-43	b	15.6	*		215	*	O-64	b	31.0	*	268	*	N-66	b	162.9	*		
163	*	N-54	a	5.0	Asa		216	*	O-63	a	43.4	*	269	*	M-70	a	299.1	Scha		
164	*	N-54	a	10.2	Asa		217	*	H-62	a	65.7	*	270	*	N-69	a	236.3	Gr. Mud		
165	*	K-58	a	8.5	Asa		218	*	O-62	a	11.9	*	271	*	N-69	a	86.0	Gn		
166	*	K-68	a	9.7	*		219	*	L-64	a	25.7	*	272	*	J-67	a	116.5	Gn		
167	*	O-67	a	11.3	*		220	*	O-55	a	52.0	*	273	*	J-67	a	114.6	Scha		
168	*	L-68	a	12.4	Asa		221	*	N-67	a	24.0	*	274	*	O-68	a	283.3	Sh		
169	*	M-65	a	11.3	Sh		222	*	O-69	a	45.9	*	275	*	O-68	a	173.5	Mud		
170	*	L-68	a	12.3	*		223	*	O-68	a	46.5	*	276	*	O-68	a	14.3	Tu. Sa		
171	*	N-60	a	20.5	*		224	*	N-65	a	30.5	*	277	*	J-66	a	110.4	And		
172	*	M-60	a	31.6	*		225	*	N-65	a	45.8	*	278	*	J-66	a	670.0	*		
173	*	N-62	a	21.9	*		226	*	O-69	a	6.0	*	279	*	O-62	a	297.3	*		
174	*	N-67	a	28.0	*		227	*	N-69	a	6.2	*	280	*	O-66	a	103.6	Gr. Mud		
175	*	N-64	a	33.0	*		228	*	O-69	a	11.4	*	281	*	O-66	a	71.8	*		
176	*	N-62	a	25.6	*		229	*	O-68	a	6.6	*	282	*	O-66	a	108.1	*		
177	*	K-65	a	31.5	*		230	*	O-68	a	28.7	*	283	*	L-65	a	860.0	*		
178	*	M-69	a	13.1	*		231	*	M-68	a	19.6	*	284	*	L-62	a	390.6	And		
179	*	L-68	a	12.0	*		232	*	O-68	a	3.8	*	285	*	J-68	a	207.2	*		
180	*	N-69	a	7.9	*		233	*	O-69	a	5.5	*	286	*	L-67	a	284.3	*		
181	*	N-66	a	4.0	*		234	*	O-63	a	7.1	*	287	*	L-67	a	392.0	*		
182	*	N-66	a	4.0	*		235	*	O-63	a	12.2	*	288	*	N-69	a	485.2	*		
183	*	O-68	a	10.9	*		236	*	L-68	a	19.5	*	289	*	J-67	a	382.2	*		
184	*	O-68	a	8.4	*		237	*	O-68	a	7.6	*	290	*	K-67	a	446.0	*		
185	*	N-56	a	3.1	*		238	*	J-62	a	9.1	*	291	*	J-67	a	355.4	*		
186	*	N-56	a	5.7	*		239	*	N-60	a	7.4	*	292	*	J-67	a	511.4	*		
187	*	N-60	a	9.7	*		240	*	N-60	a	12.0	*	293	*	J-67	a	511.4	*		
188	*	N-60	a	10.0	*		241	*	N-60	a	12.0	*	294	*	J-67	a	511.4	*		
189	*	N-67	a	16.0	*		242	*	K-65	a	10.7	*	295	*	J-67	a	511.4	*		
190	*	N-67	a	5.4	*		243	*	K-65	a	4.6	*	296	*	J-67	a	558.6	Sa		
191	*	L-65	a	11.1	*		244	*	K-62	a	8.5	*	297	*	J-67	a	558.6	Sa		
192	*	O-67	a	6.1	*		245	*	K-62	a	11.6	*	298	*	J-67	a	558.6	Sa		
193	*	O-67	a	7.6	*		246	*	K-68	a	11.6	*	299	*	J-67	a	558.6	Sa		
194	*	O-68	a	14.5	*		247	*	K-61	a	7.2	*	300	*	K-63	a	315.2	And		
195	*	O-64	a	22.0	*		248	*	N-65	a	33.9	*	301	*	K-62	a	275.6	And		
196	*	O-64	a	15.0	*		249	*	N-65	a	33.9	*	302	*	K-62	a	810.0	Gn		
197	*	O-64	a	15.6	*		250	*	N-67	a	24.5	*	303	*	K-62	a	920.0	Gn		
198	*	O-64	a	16.6	*		251	*	J-68	a	24.9	*	304	*	K-63	a	284.0	And		
199	*	O-64	a	17.7	*		252	*	J-68	a	7.3	*	305	*	J-67	a	284.0	And		
200	*	O-64	a	31.0	*		253	*	J-68	a	7.3	*	306	*	O-67	a	284.0	And		
201	*	O-65	a	10.2	*		254	*	J-65	a	20.4	*	307	*	O-65	a	284.0	And		
202	*	O-64	a	23.0	*		255	*	J-66	a	29.2	*	308	*	J-66	a	750.0	Q. P.		
203	*	O-64	a	23.0	*		256	*	J-67	a	29.2	*	309	*	J-66	a	820.0	Q. P.		
204	*	O-63	a	70.2	*		257	*	O-69	a	100.9	*	310	*	J-65	a	860.0	Gn		
205	*	O-64	a	23.0	*		258	*	O-66	a	12.7	*	311	*	N-62	a	572.2	Gn		
206	*	O-64	a	23.0	*		259	*	L-67	a	9.5	*	312	*	J-67	a	177.4	Gn		
207	*	O-64	a	23.0	*		260	*	O-64	a	9.5	*	313	*	J-65	a	177.4	Gn		
208	*	M-68	a	33.2	*		261	*	O-64	a	21.9	*	314	*	K-62	a	700.8	And		
209	*	M-68	a	35.1	*		262	*	K-67	a	50.1	*	315	*	K-62	a	595.4	Gn		
210	*	M-64	a	41.1	*		263	*	K-67	a	50.1	*	316	*	K-62	a	517.8	Gn		
211	*	N-65	a	38.5	*		264	*	N-67	a	39.7	*	317	*	J-66	a	517.8	Gn		
212	*	N-64	a	37.6	*		265	*	N-68	a	39.7	*	318	*	J-66	a	535.0	Gn		

表Ⅷ-13-(3)

番号	種別	出土区	層	重量(g)	石	材	番号	種別	出土区	層	重量(g)	石	材
319	ナ	J-64	Ⅱb	1,090.7	And	372	くばみ石	J-62	K-62	Ⅱb	132.8	Tu	425
320	ナ	N-68	Ⅱa	225.8	Pun	373	ナ	K-62	N-68	Ⅱb	585.8	Na	426
321	ナ	M-69	Ⅱa	480.8	And	374	ナ	L-66	N-68	Ⅱb	147.2	Na	427
322	ナ	J-67	Ⅱb	600	And	375	ナ	O-69	L-66	Ⅱb	740	Na	428
323	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	376	ナ	O-69	J-67	Ⅱb	180.2	Na	429
324	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	377	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	430
325	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	378	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	431
326	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	379	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	432
327	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	380	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	433
328	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	381	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	434
329	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	382	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	435
330	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	383	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	436
331	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	384	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	437
332	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	385	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	438
333	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	386	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	439
334	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	387	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	440
335	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	388	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	441
336	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	389	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	442
337	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	390	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	443
338	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	391	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	444
339	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	392	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	445
340	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	393	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	446
341	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	394	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	447
342	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	395	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	448
343	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	396	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	449
344	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	397	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	450
345	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	398	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	451
346	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	399	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	452
347	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	400	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	453
348	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	401	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	454
349	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	402	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	455
350	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	403	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	456
351	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	404	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	457
352	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	405	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	458
353	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	406	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	459
354	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	407	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	460
355	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	408	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	461
356	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	409	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	462
357	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	410	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	463
358	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	411	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	464
359	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	412	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	465
360	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	413	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	466
361	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	414	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	467
362	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	415	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	468
363	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	416	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	469
364	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	417	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	470
365	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	418	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	471
366	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	419	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	472
367	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	420	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	473
368	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	421	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	474
369	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	422	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	475
370	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	423	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	476
371	ナ	J-67	Ⅱb	710	And	424	ナ	J-62	J-62	Ⅱb	122.4	Na	477

動物遺存体一覧表

表Ⅷ-14

遺構番号	層	重 量	同 定 結 果	サンプル	遺構番号	層	重 量	同 定 結 果	サンプル	
CH-3	覆土	0.043	魚骨(含鰭棘骨)	焼土	CF-16		0.008	魚骨(含鰭棘片)	焼土	
		0.078	*	*			0.118	*	*	
CH-4	覆土	0.175	魚骨(含鰭棘骨)	焼土			0.807	含シカ椎骨・ウグイ椎骨	*	
		0.277	*	*			0.024	魚骨(含鰭棘骨)	*	
CH-10	床	0.010	獣骨片	焼土(HF-2)			0.099	*	*	
CP-5	底	0.076	サケ椎体	土壌			0.016	獣骨・魚骨(含ウグイ腹椎・尾椎)	*	
		0.744	獣骨片	*			0.110	獣骨	*	
		0.624	魚骨	柱穴状ピット内土壌			0.189	魚骨(含鰭棘骨)	*	
		0.028	魚骨(含鰭棘片)	*			0.016	*	*	
		0.053	サケ歯・椎体片	*			0.308	*	*	
		0.421	魚骨(含鰭棘片・サケ椎骨)	城底出土土器内土壌			0.050	カレイ、その他?	*	
		0.024	獣骨	*	CF-19	0.596	鳥骨(中手?骨)	焼土		
CF-7		0.019	魚骨(含鰭棘骨)	土壌・焼土		0.665	ニシン腹椎・尾椎・棘片)	*		
CF-5		0.635	魚骨片	焼土		0.633	獣骨片	*		
		0.646	*	*		0.986	*	*		
		0.002	魚骨(含鰭棘片)	*		0.003	魚骨(含鰭棘骨)	*		
		0.052	*	*		0.053	*	*		
		0.950	獣骨片	*		CF-28		0.114	獣骨片	焼土
		1.589	*	*		CF-30		0.028	魚骨(カレイ類)	焼土
CF-7		0.009	魚骨(含鰭棘骨)	土壌・焼土			0.667	魚骨	*	
CF-16		2.588	海樺獣骨片	焼土		CF-31		0.044	獣骨片	焼土
		0.633	魚骨(含ニシン尾椎)	*	CF-33		0.040	魚骨(サケ類)	焼土	
		1.038	サケ	*	CF-40		0.178	魚骨(含鰭棘骨)	焼土	
		0.738	魚骨(含椎体・鰭棘片)	*		0.295	*	*		
		0.641	獣骨片	*	CF-42	0.089	魚骨(含鰭棘骨)	焼土		
		0.008	タヌキ?末節骨	*		0.164	*	*		
		0.085	魚骨(含鰭棘片)	*						

図版 Ⅰ



C地区 調査風景



C地区 全完掘風景

図版 2



調査風景（沢部分）



調査風景（沢部分）



調査風景

図版 3



CH-1 炭化材出土状況



CH-1 完 掘



CH-2 床面炭化材と土器片出土状況



CH-2 炭化材出土状況

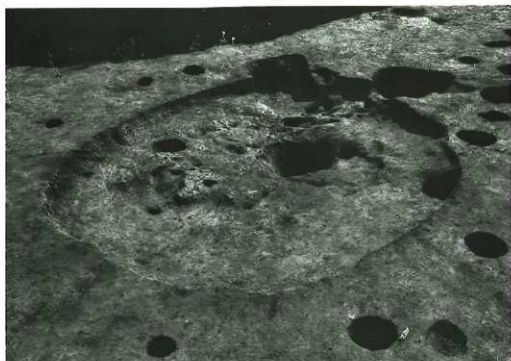


CH-2 覆土遺物出土状況

図版 4



CH-2 発



CH-3 発 掘

図版 5



CH-4 完掘



CH-4 床面炉（土器片と礫）



CH-5 覆土土器出土状況



CH-5 床面遺物出土状況



CH-5 完掘

図版 6



CH-7・9 完 撮



CH-7・9 セクションと遺物出土状況



CH-10 床面遺物出土状況



CH-10 床面炉のセクション



CH-10 完 撮

図版 7



CH-11・12 完撮



CH-11 床面炉(土器片囲い炉)



CH-11 完撮



CH-13 セクション



CH-13 完撮

図版 8



CTP-Ⅰ セクション



CTP-Ⅰ 完掘



CP-5 と立石

図版 9



CP-7 穴掘



CP-8 穴掘



CP-12 穴掘



CP-13 穴掘



包含層Ⅲ層土器出土状況（後期図Ⅷ-93-62）

図版 10



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ

図版 11



M・N-65 Grid 土器出土状況 土器集中Ⅲ



包含層Ⅲ d 層 土器出土状況（前期）

図版 12



包含層Ⅲ c・d層 土器出土状況（前期～中期）



包含層Ⅲ c・d層 土器出土状況（前期～中期）



包含層Ⅲ d層 土器出土状況（前期）

図版 13



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ
(後期図Ⅷ-66-4)



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ
(後期図Ⅷ-69-25)



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ
(後期図Ⅷ-67-11)



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ
(後期図Ⅷ-69-21)



沢部分土器出土状況 土器集中Ⅱ (後期図Ⅷ-66-5)

図版 14



包含層Ⅲ層 ミニチュア土器出土状況
(図Ⅷ-95-70)



包含層Ⅲ層 鯉形土製品 (図Ⅷ-159-455)



包含層Ⅲ層下 土器出土状況 (図Ⅷ-84-5)

図版 15



Ⅳ群C類 CH-1 (図Ⅷ-5-1)



Ⅳ群C類 CH-2 (図Ⅷ-10-5)



Ⅳ群C類 CH-2 (図Ⅷ-10-3)



Ⅲ群A類 CH-5 (図Ⅷ-21-6)



Ⅲ群A類 CH-5 (図Ⅷ-22-7)



Ⅲ群B₁類 CH-7 (図Ⅷ-32-4)



Ⅲ群A類 CH-6 (図Ⅷ-27-2)



Ⅲ群A類 CH-9 (図Ⅷ-36-2)



Ⅲ群B₂類 CH-6 (図Ⅷ-27-5)

図版 20



Ⅲ群B₂類 CH-10 (図Ⅷ-38-2)



Ⅲ群B₂類 CH-11 (図Ⅷ-41-1)



Ⅳ群A₂類 CP-5 (図Ⅷ-48-1)



Ⅴ群B類 CH-10 (図Ⅷ-38-10)

図版 21



Ⅲ群A類 土器集中Ⅰ (図Ⅶ-53-1)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ (図Ⅶ-53-2a)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ (図Ⅶ-53-4a)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ (図Ⅶ-53-4b)

図版 22



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ（図Ⅷ-54-6）



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ（図Ⅷ-54-8）



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ（図Ⅷ-54-7）



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ（図Ⅷ-55-10）



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ（図Ⅷ-54-9）

図版 23



Ⅲ群A類 土器集中Ⅰ (図Ⅷ-55-11)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ (図Ⅷ-55-12)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ (図Ⅷ-55-14)



Ⅱ群B類 土器集中Ⅰ

図版 24



Ⅳ群B類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-1)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-3)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-4)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-2)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-5)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-66-6)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-67-8)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-67-9)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-67-7)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-67-10)

図版 26



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-71-42)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-69-22)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-69-21)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-69-23)

図版 27



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-70-33)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-70-34)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-70-35)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-71-41)



Ⅵ群A₃類 土器集中Ⅱ (図Ⅶ-71-43)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-67-11)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-68-13)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-68-15)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-68-19)

図版 30



Ⅲ群B₁類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-57-2)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-57-4)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-57-3)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-15)

図版 31



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-57-8)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-16)



Ⅲ群B₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-13)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-18)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-17)

図版 32



Ⅳ群 A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-19)



Ⅳ群 A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-58-20)



Ⅲ群 A 類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-23)



Ⅳ群 A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-21)



Ⅳ群 A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-28)

図版 33



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-29)



Ⅴ群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-1)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-30)



Ⅴ群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-2)



Ⅳ群A₂類 土器集中Ⅱ (図Ⅷ-59-32)



Ⅴ群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-4)

図版34



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-6)



V群B類 土器集中 (図Ⅷ-79-10)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-8)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-11)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-9)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-12)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-13)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-80-16)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-79-14)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-80-18)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-80-15)



V群B類 土器集中Ⅲ (図Ⅷ-80-19)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-83-2)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-83-3c)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-83-4)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-83-3b)



Ⅴ群B類 包含層 (図Ⅶ-84-7b)



Ⅲ群A類 包含層(図Ⅶ-83-3a)



Ⅲ群A類 包含層(図Ⅶ-84-5)



Ⅴ群B類 包含層(図Ⅶ-84-7a)



Ⅱ群B₂類 包含層(図Ⅶ-83-1a)



Ⅱ群B₂類 包含層(図Ⅶ-83-1b)



Ⅳ群A₂類 包含層(図Ⅶ-84-6)



Ⅱ群B₂類 包含層(図Ⅶ-85-1)



Ⅱ群B₂類 包含層(図Ⅶ-85-3)



Ⅱ群B₂類 包含層 (図Ⅶ-86-4)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-86-8)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-87-10)



Ⅱ群B₂類 包含層 (図Ⅶ-85-2)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅶ-87-12)



Ⅲ群A類 包含層（図Ⅷ-86-9）



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅷ-87-11)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅷ-87-14)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅷ-87-15)



Ⅲ群A類 包含層 (図Ⅷ-87-13)



Ⅲ群B₂類 包含層 (図Ⅷ-88-20)



Ⅲ群A類 包含層



Ⅲ群B₂類 包含層 (図Ⅶ-88-21)



Ⅲ群C類 包含層 (図Ⅶ-88-25)



Ⅳ群A類 包含層 (図Ⅶ-88-27)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅶ-95-72)



Ⅳ群B類 包含層 (図Ⅶ-97-92)



Ⅳ群A₁類 包含層 (図Ⅶ-95-69)



Ⅳ群A₁類 包含層 (図Ⅶ-95-68)



Ⅳ群A₁類 包含層 (図Ⅶ-89-34)

図版 44



IV群A₂類 包含層 (図VII-90-38)



IV群A₂類 包含層 (図VII-96-74)



IV群A₂類 包含層 (図VII-96-73)



IV群A₂類 包含層 (図VII-90-93)



IV群A₂類 包含層 (図VII-93-58)



IV群A₂類 包含層 (図VII-89-30)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-90-40)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-89-31)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-89-28)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-89-33)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-90-37)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-90-41)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-91-46)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-91-49)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-91-44)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-92-50)

図版 47



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-91-48)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-91-47)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-88-26)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-94-59)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-93-54)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-93-57)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-93-55)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-93-62)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-94-60)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-96-78)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-96-80)



Ⅳ群B類 包含層 (図Ⅷ-97-89)



Ⅳ群A₂類 包含層 (図Ⅷ-96-79)



Ⅳ群B類 包含層 (図Ⅷ-98-96)



IV群B類 包含層 (図VIII-98-97)



IV群B類 包含層 (図VIII-97-90)



IV群C類 包含層 (図VIII-97-101)



IV群C類 包含層 (図VIII-98-100)



Ⅳ群C類 包含層 (図Ⅷ-98-98)



Ⅳ群C類 包含層 (図Ⅷ-98-99)



Ⅳ群C類 包含層 (図Ⅷ-98-103)



Ⅳ群C類 包含層 (図Ⅷ-98-102)



Ⅴ群B類 包含層 (図Ⅷ-99-106)



Ⅴ群B類 包含層 (図Ⅷ-99-107)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-99-108)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-99-111)



V群C類 包含層 (図Ⅶ-99-113)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-99-112)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-99-114)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-99-116)



V群B類 包含層 (図Ⅷ-100-125)



V群B類 包含層 (図Ⅷ-100-121)



V群B類 包含層 (図Ⅷ-100-119)



V群B類 包含層 (図Ⅷ-100-122)



V群B類 包含層 (図Ⅷ-100-123)



V群B類 包含層 (図Ⅶ-100-118)



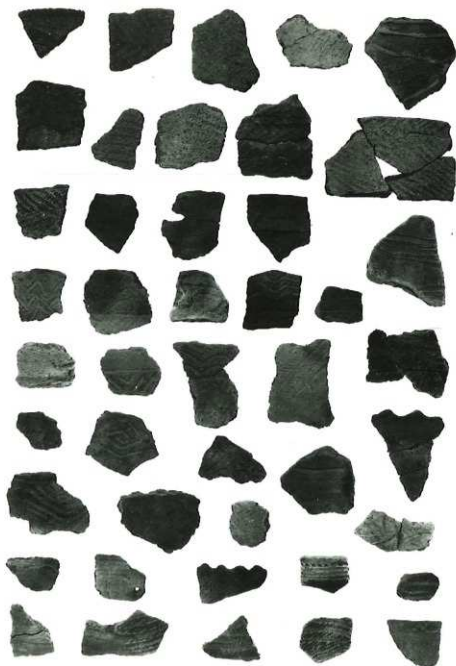
V群B類 包含層 (図Ⅶ-100-117)



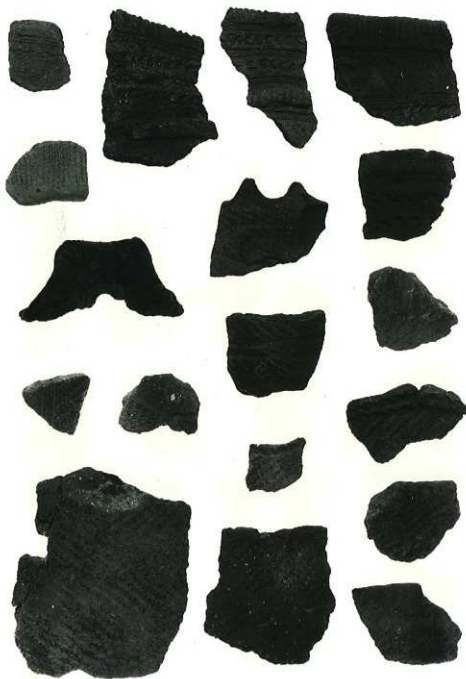
Ⅳ群B類 包含層 (図Ⅶ-97-93)



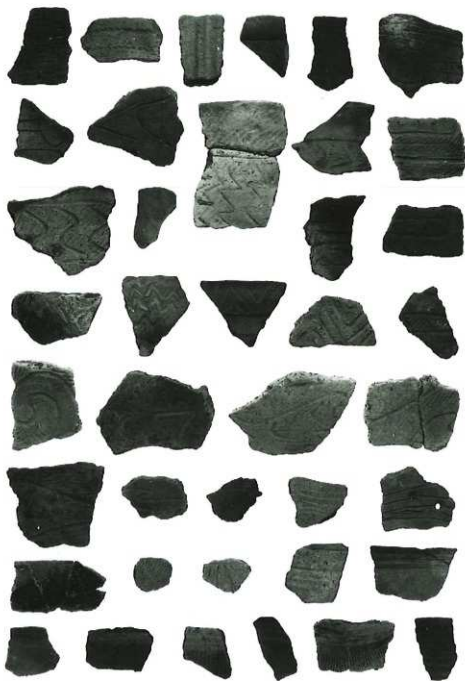
V群B類 包含層



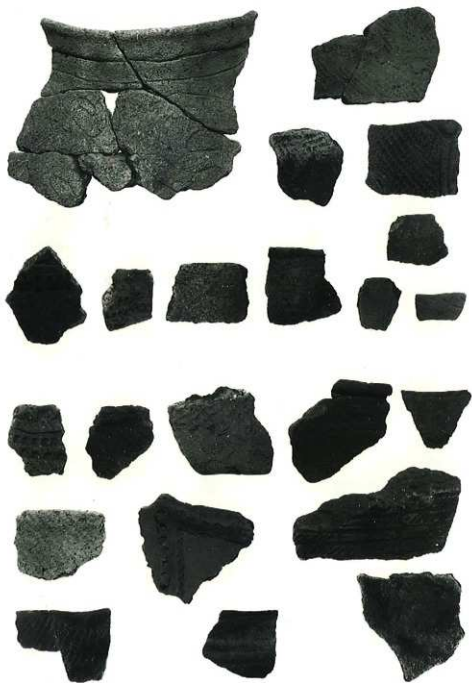
CH-I 出土の土器



CH-2 出土の土器



CH-2 出土の土器

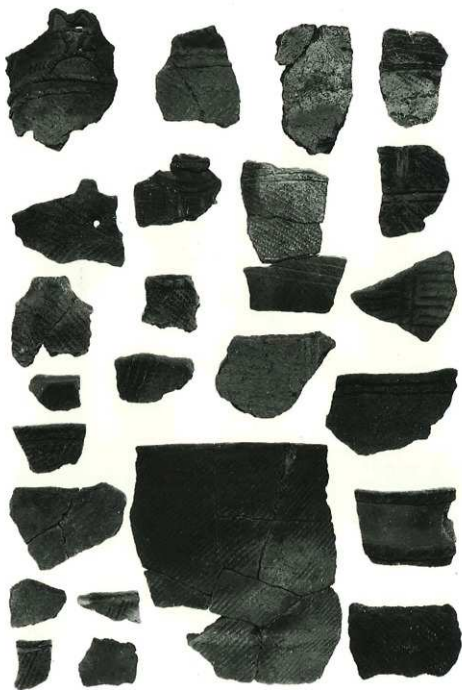


C H-3・4出土の土器

図版 60



CH-5 出土の土器



CH-5 出土の土器

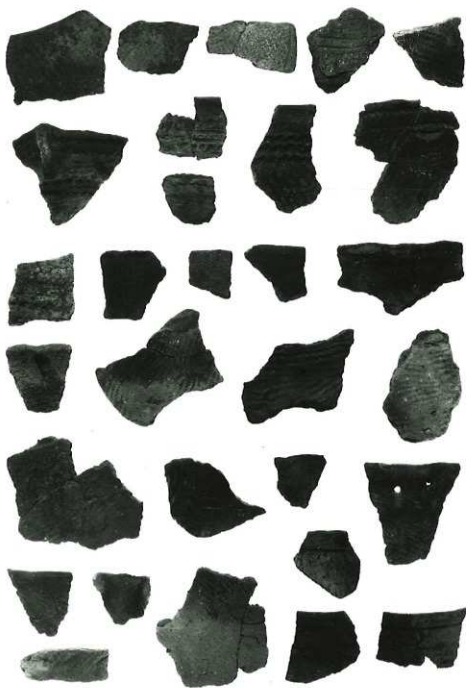


CH-5 出土の土器

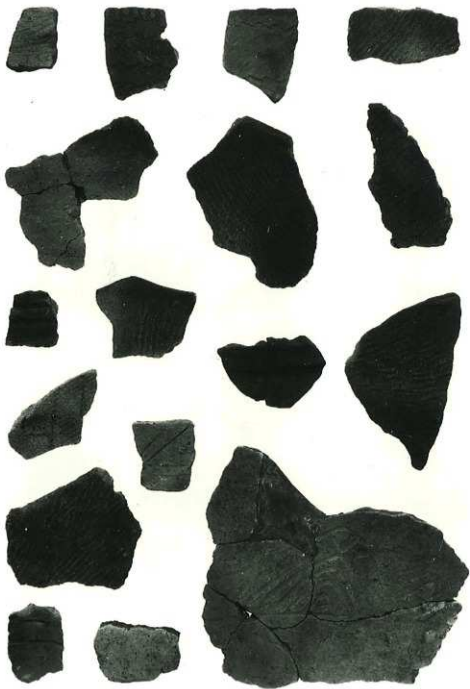


CH-6 出土の土器

図版 64



CH-6 出土の土器

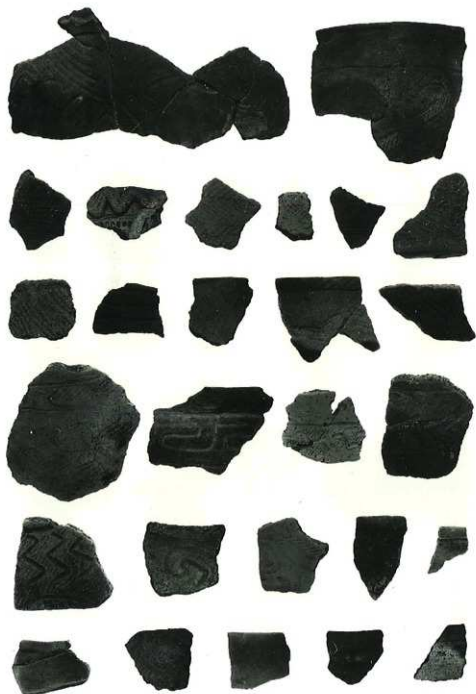


CH-7 出土の土器

図版 66



CH-8 出土の土器



CH-10 出土の土器

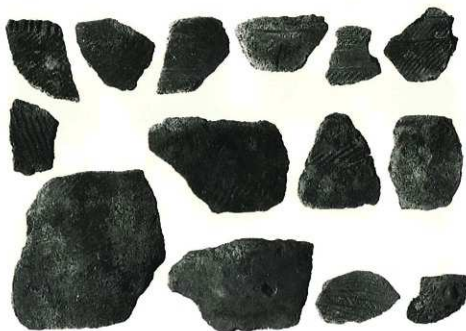


CH-II 出土の土器

図版 69



CH-12・13 出土の土器

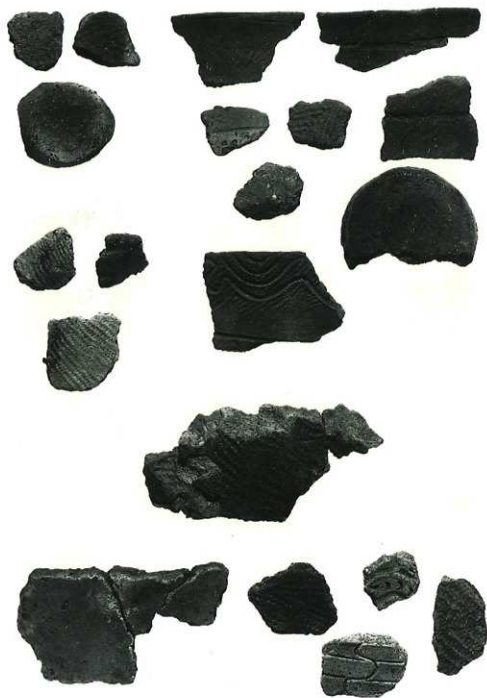


CTP-1 出土の土器



CP-4・5・7・8・10・11 出土の土器

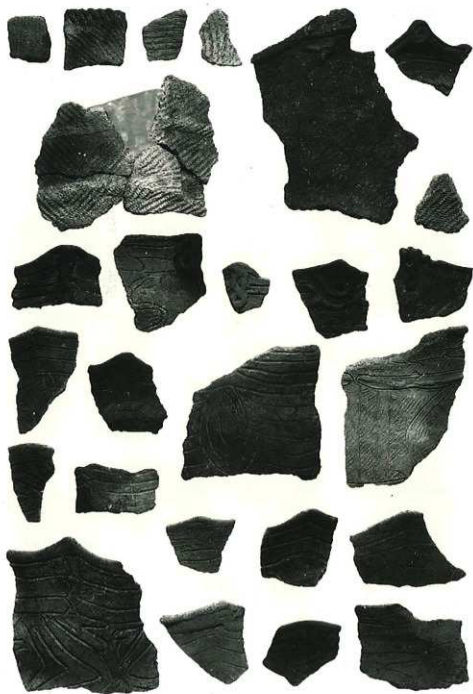
図版 71



C P-12・13・14・15・16・17 出土の土器



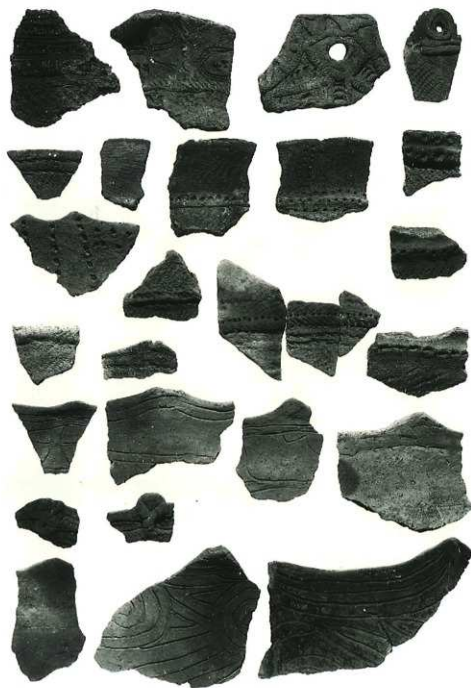
土器集中Ⅱ J-62・63 I層出土の土器（上4列J-62、下2列J-63）



土器集中Ⅱ J-62Ⅲ層出土の土器



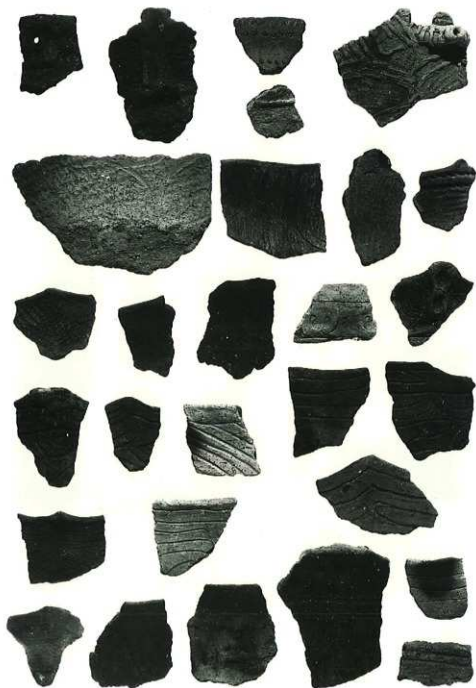
土器集中Ⅱ J-62Ⅲ層出土の土器



土器集中II J-62III c 層出土の土器



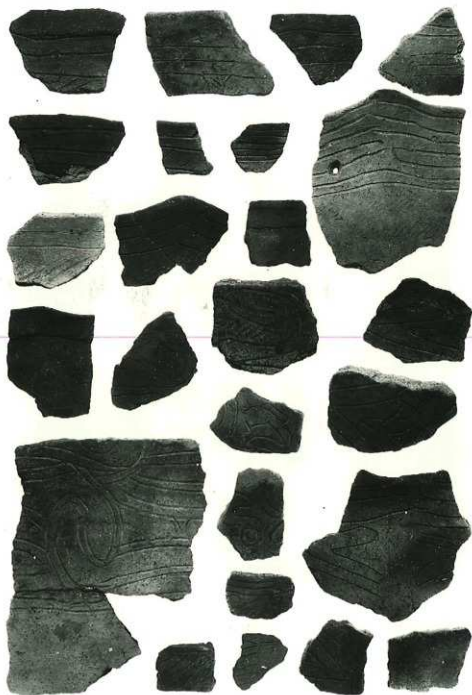
土器集中Ⅱ J-62Ⅲc層出土の土器



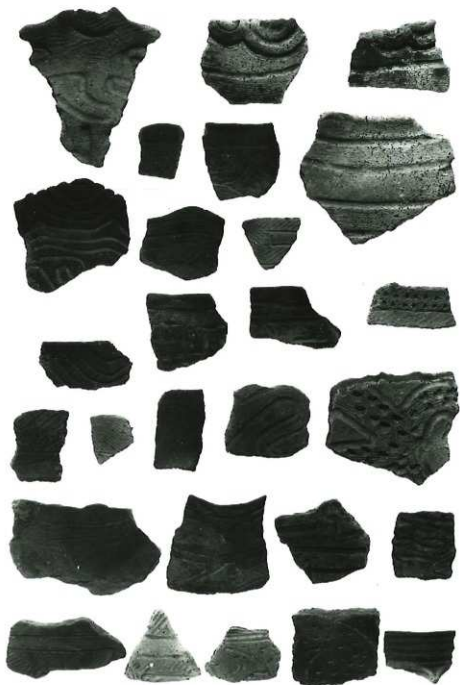
土器集Ⅱ J-62Ⅲ d層出土の土器



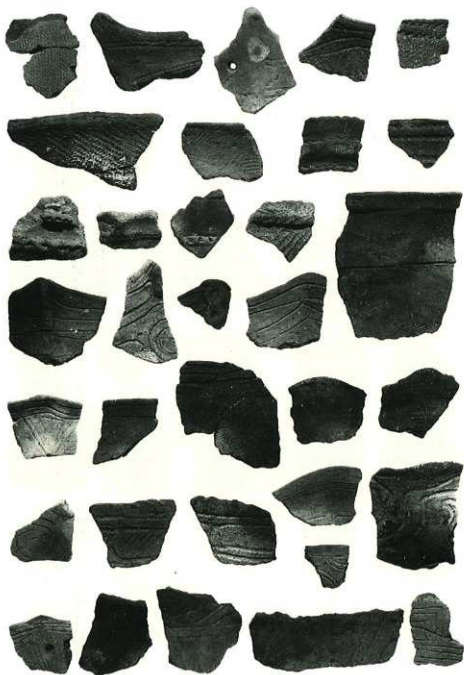
土器集中Ⅱ J-63Ⅲ層出土の土器



土器集中Ⅱ J-63Ⅲ層出土の土器

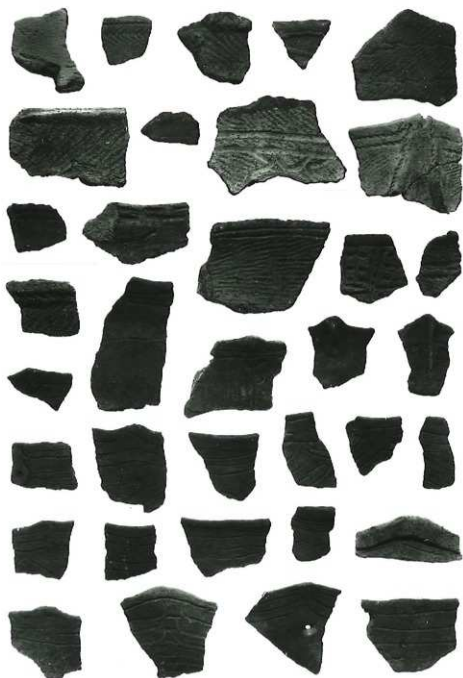


土器集中Ⅱ J-63Ⅲ層出土の土器



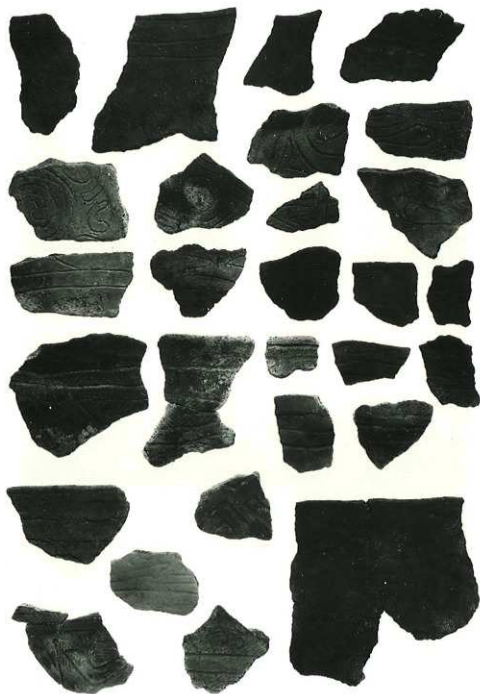
土器集中Ⅱ J-63Ⅲc層出土の土器

図版 82



土器集中Ⅱ J-63Ⅲ d層出土の土器

図版 83

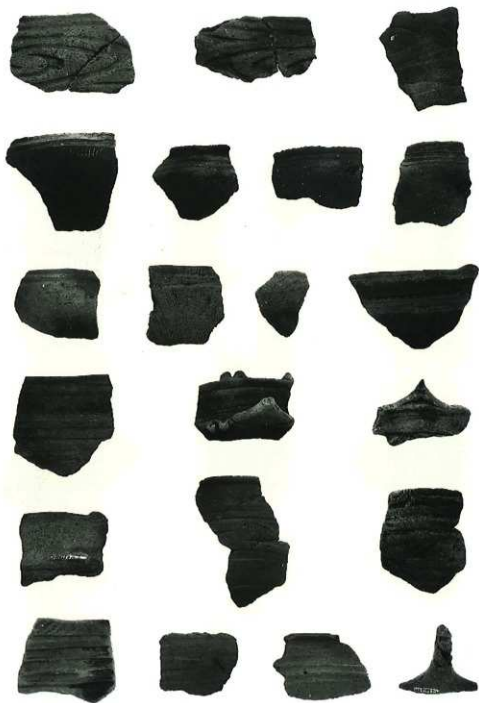


土器集中Ⅱ J-63Ⅲ d層出土の土器

図版 84

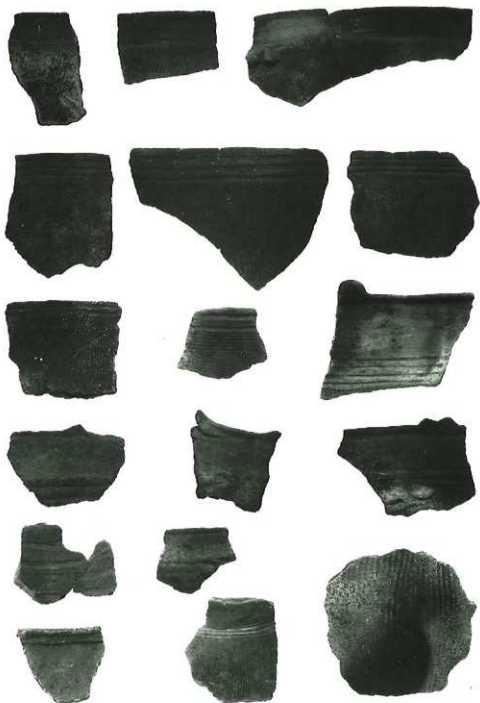


土器集中Ⅱ J-63Ⅲ・Ⅲc層出土の土器

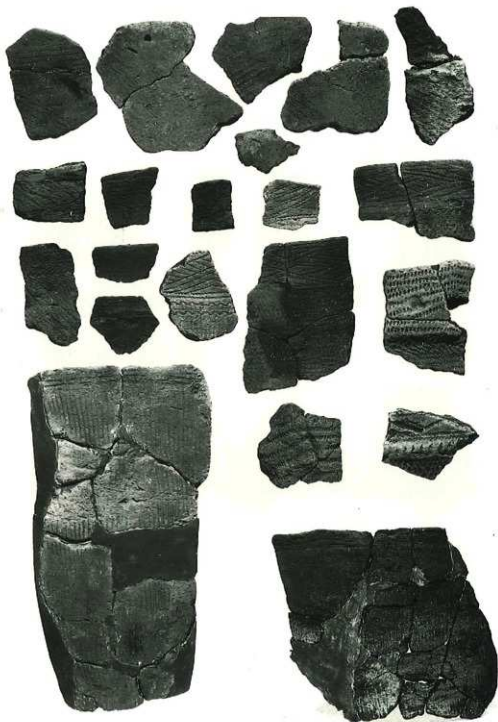


土器集中Ⅲ（浅鉢）.

図版 86



土器集中Ⅲ (深鉢・壺形)



I・II群土器 包含層出土の土器

図版 88



Ⅲ群A類 包含層出土の土器



Ⅲ群A類 包含層出土の土器

図版 90



Ⅲ群A類・大木8a式土器 包含層出土の土器

図版 91

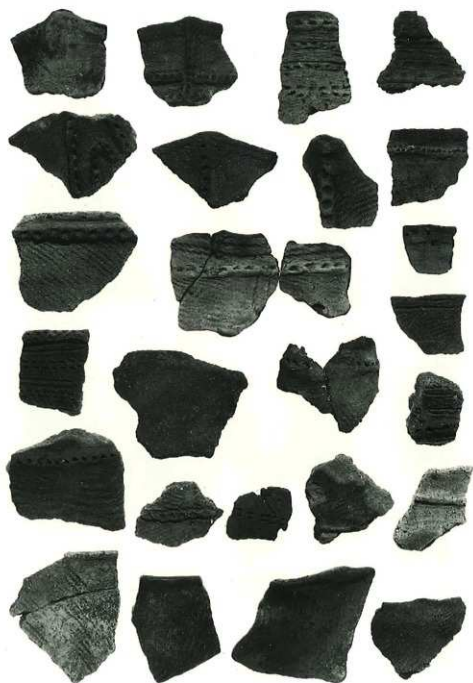


Ⅲ群 B₁類 包含層出土の土器

図版 92

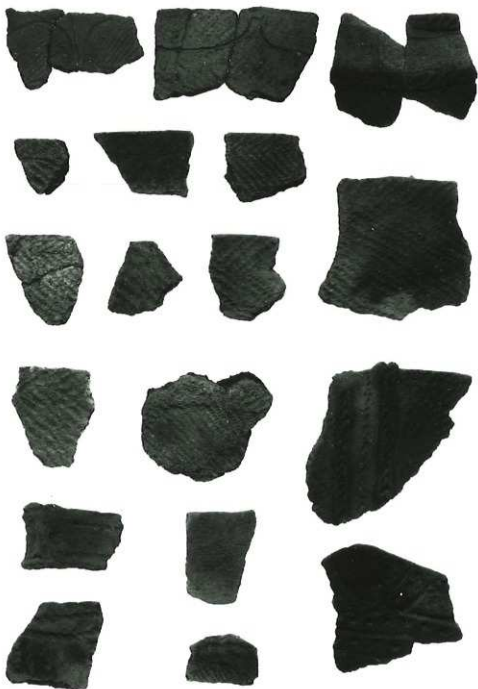


Ⅲ群B,類 包舎層出土の土器

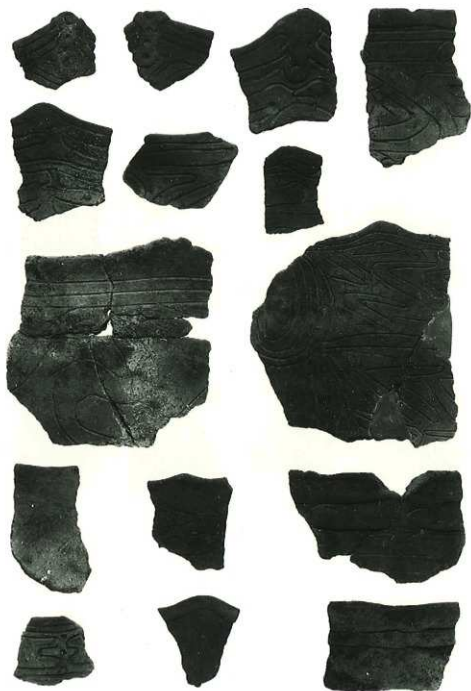


Ⅲ群B₂類 包含層出土の土器

図版 94



Ⅳ群A₁類 包含層出土の土器

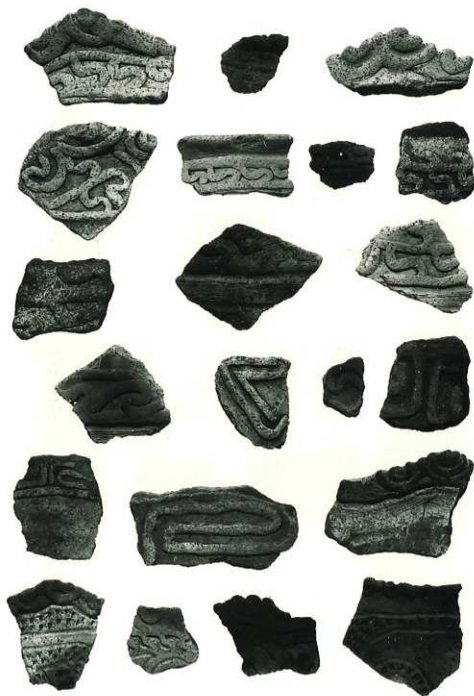


IV群A₂類 包含層出土の土器

図版 96

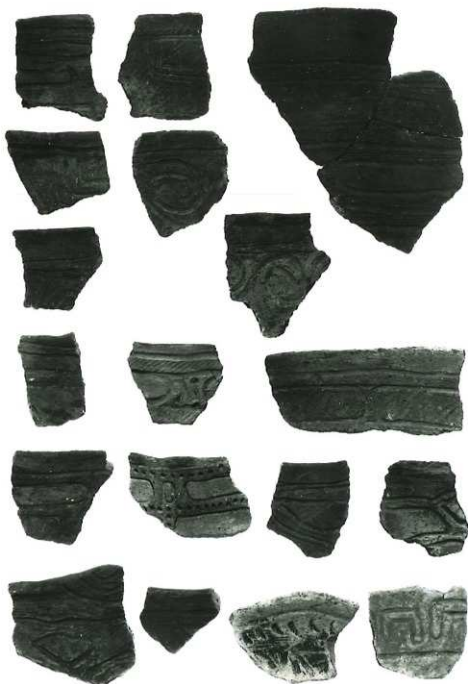


Ⅳ群A₂類 包含層出土の土器

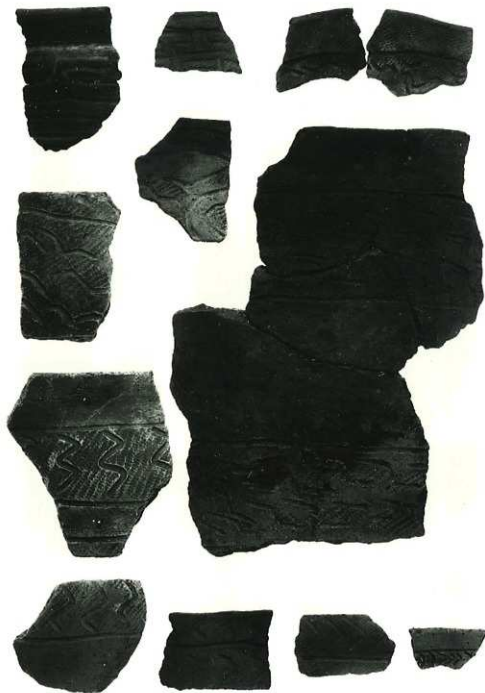


Ⅳ群A₂類 包含層出土の土器

図版 98

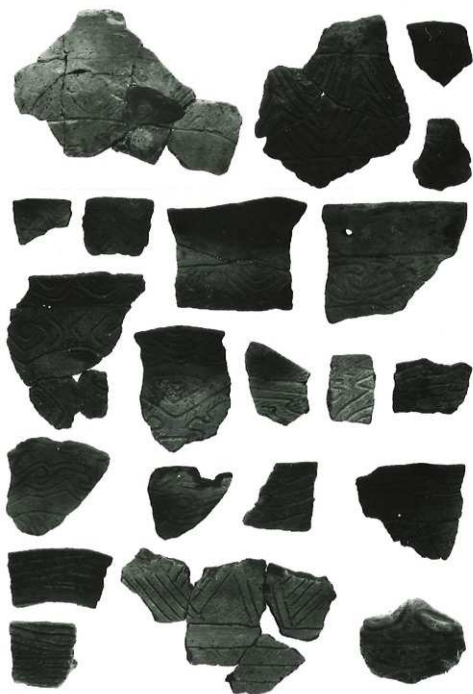


Ⅳ群A₂類 包含層出土の土器



Ⅳ群A:類 包含層出土の土器

図版 100



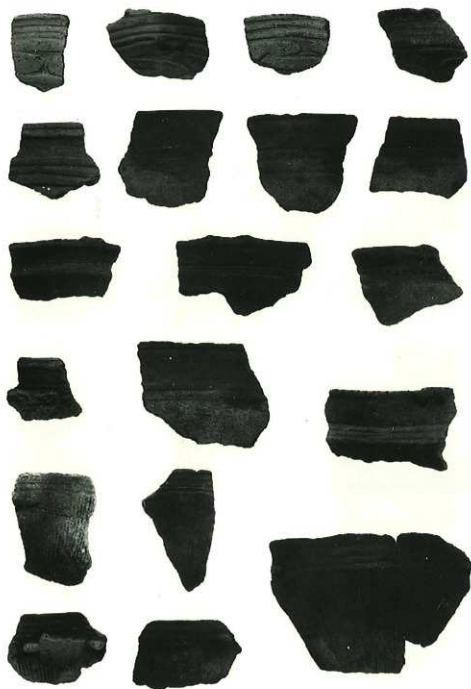
Ⅳ群A₂類、Ⅳ群B類、十腰内Ⅱ式 包含層出土の土器



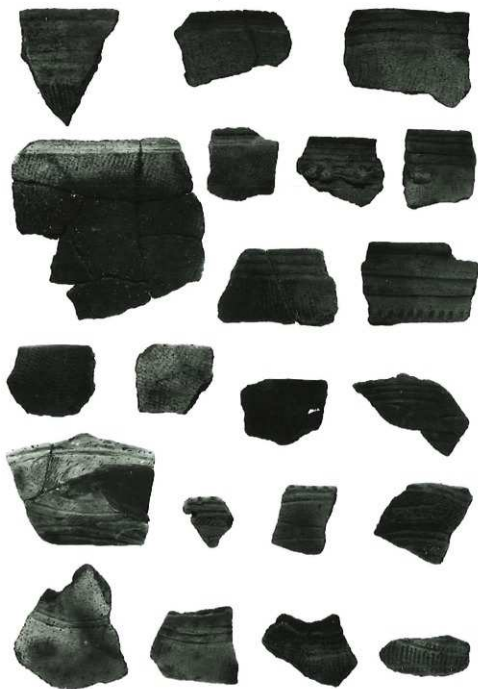
IV群B類 包含層出土の土器



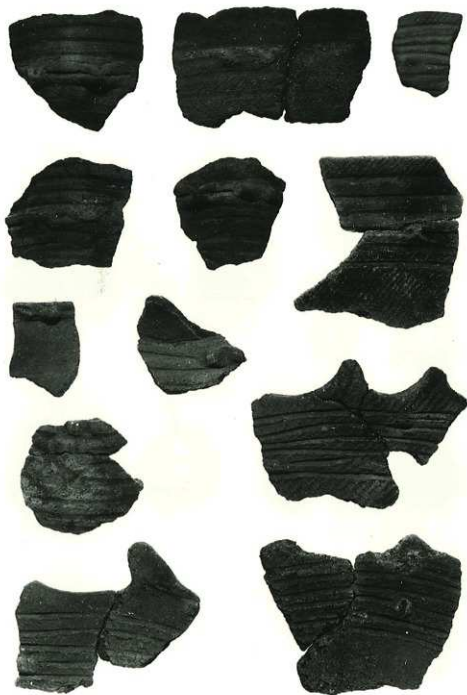
Ⅳ群C類 包含層出土の土器



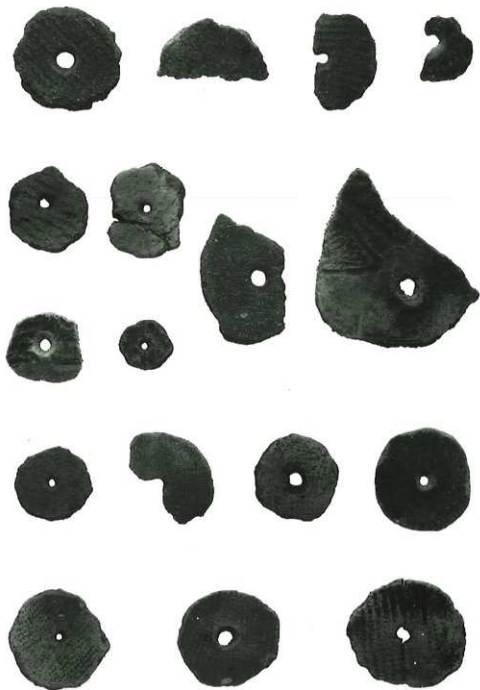
V群B類（浅鉢） 包含層出土の土器



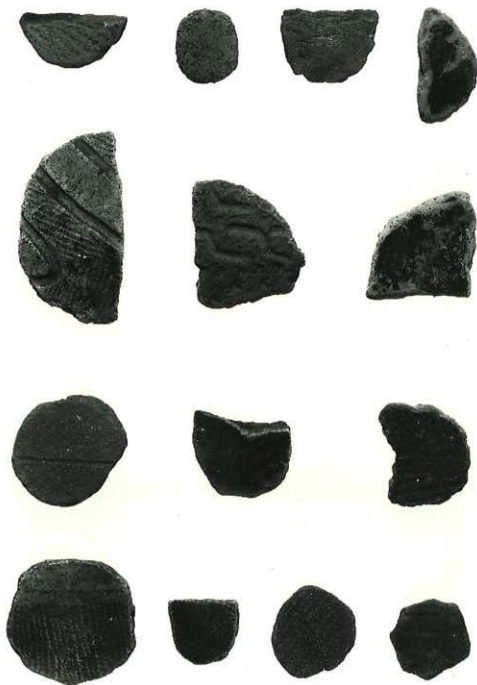
V群B類（深鉢・壺形）包舎層出土の土器



V群C類 包含層出土の土器



有孔土製円盤



土製円盤



包含層出土のアスファルト塊（CF-14周辺）（28.3g実物の79%大）



石鏃（左：CH-7覆土・右：M-67Ⅲ層）